Ishikawa Healthcare Group

50th Anniversary

石川ヘルスケアグループ

IHG

ISHIKAWA HEALTHCARE GROUP

A THANKFUL 50th

いきるを支える
医療・介護・福祉の実現

目 次

02P…石川ヘルスケアグループとは
04P…会長挨拶
06P…総院長挨拶
08P…祝辞
17P…沿革
32P…石川聚一物語
37P…外部との連携・協力の歴史
60P…数字で見る石川ヘルスケアグループ
64P…50周年を迎えて
65P…石川ヘルスケアグループの今後の未来像
66P…石川ヘルスケアグループ概要

いきるを支える

1976-2025
ISHIKAWA HEALTHCARE GROUP
50TH ANNIVERSARY

住み慣れた町で
いつまでも安心して暮らしたい。
だからこそ、皆さま方の暮らす町で
私たちは医療・介護・福祉をお届けします。
よりよく、いまを生きるために。
一人ひとりがどう生きるか、
ともに向き合い、支えます。

長い人生のあいだには、医療の助けが必要な時もある。

石川ヘルスケアグループでは、病気の予防や専門性の高い医療の提供からご自宅でのケアまで一貫して支えていきます。
さらに、地域の医療機関の先生方やさまざまな機関との連携を図り、地域全体で皆さま方のいきるを支えます。

IHG
ISHIKAWA HEALTHCARE GROUP

いきるを支える 医療・介護・福祉の実現

石川ヘルスケアグループは、石川記念会・愛美会・健康会からなる医療・介護・福祉の総合グループです。各法人のそれぞれの強みを活かして、病気の予防から専門性の高い医療まで切れ目のないサービスを提供し、理念である「いきるを支える 医療・介護・福祉の実現」を目指して、発展・進化を続けています。

石川ヘルスケアグループ

グループ総職員数
約1300人

いきるを支える。
HITO病院
二次救急・人間ドック
228床

医療法人
健康会
クリニック・
介護老人保健施設・
訪問看護
177床

社会福祉法人
愛美会
特別養護老人ホーム・
グループホーム
482床

ケアマネ
地域連携

地域と共に歩んだ半世紀
変わらぬ想いとともに次の一歩へ

石川ヘルスケアグループは、地域の皆様ならびに関係者の皆様の温かいご支援とご協力のもと、設立50周年という節目を迎えることができました。心より深く御礼申し上げます。

私が医師を志す契機となったのは、中学校担任の「町内に医師がいない。将来、誰かが医師となり地元で活躍してほしい」との言葉、そして教育者であった父の勧めにより私立土佐高校へ編入進学したことにあります。

長崎大学卒業後、長崎県内の病院で研修を受けていた折、ダム工事で増える人々のため、無医村であった新宮診療所へ赴任いたしました。

その後、郷里である四国中央市上分町において、昭和51年に19床の石川外科医院を開院。開院当初より「本日休診」の札は掲げず、365日24時間体制で診療にあたる日々が続きました。

しかしながら、家族からの健康を案じる声もあり、個人での救急医療には限界を感じ、昭和54年に医療法人聚愛会石川病院として法人化し、本格的な二次救急医療を開始いたしました。

当時、医師の確保は困難を極めましたが、徳島大学脳神経外科の故松本圭蔵教授、愛媛大学第二外科の故木村茂教授のご厚意により医局員の派遣を賜り、現在の病院の礎を築くことができました。

病床も満床が続き、老人社会の到来を感じ、社会福祉施設の設立、予防医療の推進、電子カルテやDPC制度の導入など、運営の効率化と医療の質の向上に努めてまいりました。

19床の診療所から始まり、現在、228床の社会医療法人石川記念会HITO病院、24事業を有する社会福祉法人愛美会、15事業を有する医療法人健康会へと発展を遂げております。これらの法人が継続的に挑戦を続けてこられたのは、時代の変化に即応した情報収集と柔軟な対応、そして行動力の賜物であると実感しております。

創業期から変革期に至るまで、私のビジョンに共感し、共に実現へと導いてくれた多くのスタッフの皆様には、感謝の念に堪えません。

幾多の困難を乗り越え、現在は長女・石川賀代が二代目理事長、次女・扇喜真紀が副院長、次女の夫・扇喜智寛が消化器内科部長、健康会の理事としてその志を継承し、私も安堵の気持ちでおります。

なお、私は71歳の折に医療法人健康会石川クリニックを新たに開設し、85歳の現在も診療を続けております。

人生の最終章とも言える「玄冬の玄の玄」を迎えた今、「春愁や老医に患者のなき日あり」の句に深く共鳴しつつも、なお一層、現役として医療に尽力してまいりたいと存じます。

今後とも、皆様の変わらぬご支援とご厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

石川ヘルスケアグループ　会長
社会医療法人石川記念会 HITO病院　名誉院長
社会福祉法人愛美会　理事長
医療法人健康会　理事長

石川 聚一（いしかわ けいいち）

Profile

「どんな患者も見捨てない」という理念のもと、1976年に石川外科医院を開設し、地域の救急医療の礎を築く。社会福祉法人愛美会・医療法人健康会を開設し、医療・介護・福祉の一体的な地域支援体制を構築。約50年にわたり地域に根ざした医療を実践している。

人を真ん中に
—感謝と挑戦の50年、そして未来へ

石川ヘルスケアグループは、1976年に石川外科医院として開院して以来、地域の皆さまと共に歩み続け、50年を迎えました。この節目の年にあたり、まずは長年にわたり支えてくださった地域の皆さま、関係者の方々に心より御礼を申し上げます。また同志として共に歩んでくれた職員にも感謝を伝えたいと思います。

私たちの原点は、父であり、石川ヘルスケアグループ会長である石川粲一が掲げた「誰も見捨てない、患者を家族のように思う」という理念にあります。医療資源が限られていた時代、地域に救急医療体制が整っていない現実に直面し、「救える命を救いたい」という強い思いから石川外科医院を開院。その後、石川病院として拡充を重ね、地域のニーズに応える体制を築いてまいりました。

2013年には、地域医療再生計画に基づく県立病院の民間移譲に伴う病床再編により、HITO病院を開院いたしました。石川病院のDNAを引き継ぎ、また私共の原点である救急医療を中心に今後も地域医療を守り続けるという思いから、公的医療機関に準ずる法人格である社会医療法人の認定を受けました。病院名も、Humanity・Interaction・Trust・Openness の頭文字をとったHITO病院に変更し、人を真ん中に置いた医療を体現し、日々の現場で実践する行動規範となっています。

今、医療のみならず社会全体が「VUCAの時代」に突入し、予測困難な環境が私たちの日常を揺さぶっています。少子高齢化や医療人材の不足、地域間格差といった課題は、これまでの常識や枠組みを超えた新たな発想と行動を私たちに求めています。

しかし、どれほど時代が移り変わろうとも、「人を真ん中に置く」という私たちの信念は揺らぎません。現場の声に耳を傾け、テクノロジーの力を柔軟に取り入れ、地域の誰もが安心して「いきる」を全うできる社会を目指して、私たちは挑戦を続けていきます。DXの推進もその一つであり、全職員へのスマートフォン貸与やスマートグラスの活用など、現場発のイノベーションが新たな医療の地平を切り拓いています。

そして今、私たちは「HITO20」という新たな構想を掲げています。これは、医療・介護・福祉・地域社会が一体となり、誰もが自分らしく生きられる未来を創るための挑戦です。私たち、HITO病院・石川ヘルスケアグループが単なる医療機関にとどまらず、地域のインフラとして、健康・福祉・教育・産業など多様な分野と連携・協働し、地域全体の「いきるを支える」存在となる—それが私たちのパーパスです。

これまで支えてくださったすべての方々への感謝を胸に、これからの50年も、時空を超え、誰一人取り残さない医療を—。皆さまと共に、未来への一歩を踏み出してまいります。

石川ヘルスケアグループ　総院長
社会医療法人石川記念会 HITO病院　理事長
石川賀代（いしかわ かよ）

Profile

父の「どんな患者も見捨てない」という理念を継承し、HITO病院理事長として“人を真ん中に置いた医療”を体現。公職では、日本医療法人協会副会長、日本病院DX推進協会代表理事 等を務める。デジタル技術の活用による病院DXに尽力し、現場発のイノベーションを展開。地域全体の「いきるを支える」存在となることを目指す。

愛媛県知事

中村 時広

地域医療や医療DXへの貢献に感謝します

Profile

1960年松山市生まれ。慶應義塾大学卒業。1999年より松山市長を3期務め、2010年現職に就任。現在４期目。趣味は読書、スキー、バドミントン。

石川ヘルスケアグループの創立50周年を心からお喜び申し上げます。

貴グループにおかれては、昭和51年に原点である石川外科医院を開設され、「いきるを支える」という理念の下、地域の方々がよりよく生きるための医療を実践いただきますとともに、医療DXにも積極的に取り組まれ、本県の地域医療の向上に多大な御貢献を賜っており、深く敬意と感謝の意を表します。

県では、「第８次愛媛県地域保健医療計画」を策定し、誰もが住み慣れた地域で安心して良質な医療を受けられるよう、限りある医療資源を有効に活用し、地域のニーズに応じた医療提供体制の整備を進めているところです。

皆様方におかれましては、創立50周年を契機に、グループ内の結束を一層強められ、引き続き、本県の保健医療の充実と、誰もが健康で豊かな生活を送ることができる愛媛づくりにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、石川ヘルスケアグループの限りない御発展と、皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたします。

元厚生労働大臣

塩崎 恭久

HITO中心に地域住民の健康を守り続ける

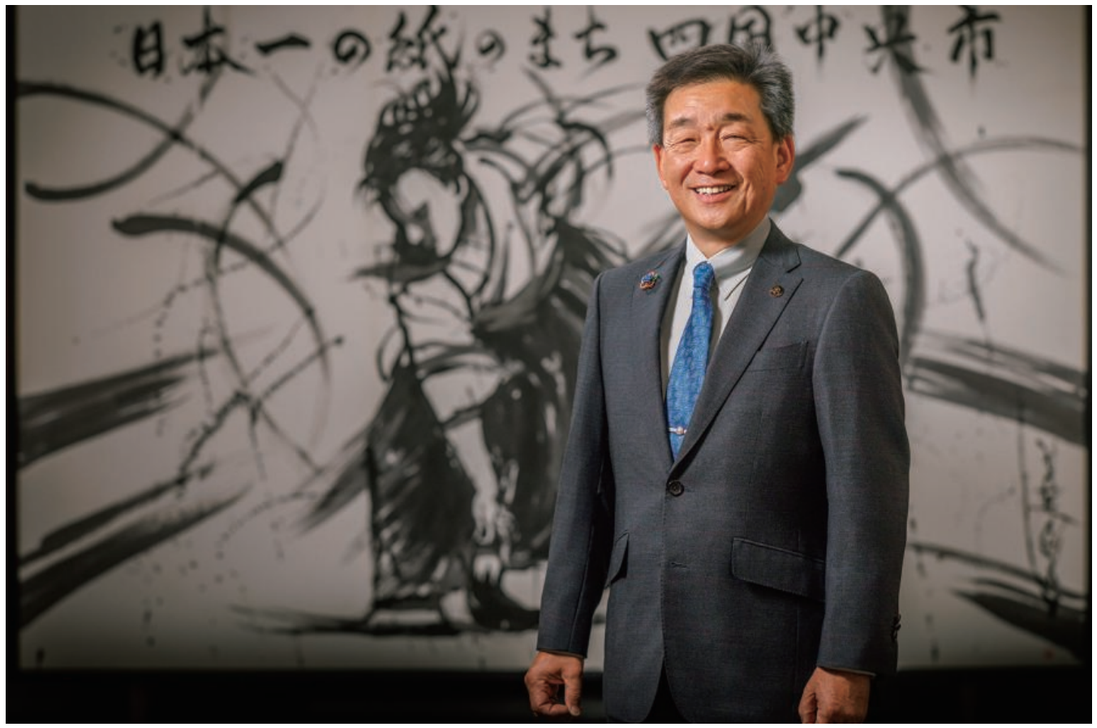
Profile

東大卒、ハーバード大行政学修士。日銀勤務後、衆参９期当選。内閣官房長官、厚生労働大臣等。現在、(NPO)子どもリエゾンえひめアドヴァイザー、ゲノム医療推進研究会主宰、等。

石川ヘルスケアグループは、石川外科医院開設以来50年、一貫して四国中央市地域住民の医療、介護、福祉等健康を広く、温かく守って来て頂きました。心からお祝い、感謝申し上げます。

厚生労働大臣だった2015年、「保健医療2035提言書」をとりまとめ、「量から質へ」、「インプット中心からアウトカム重視へ」等、パラダイムシフトを説き、それに基づき、2017年に「データヘルス改革推進計画」を公表致しました。「国民のための医療DX」の始まりでした。

しかし政府の実装の歩みは遅く、私は自民党・データヘルス特命委員長として、政府の背中を押し続けましたが、そこに何度となくおいで頂き、着々と実装するHITO病院での新たな医療哲学、医療DXを説得力を持って語って下さったのが、石川賀代総院長でした。①本来業務の医療への集中、②働き手に選ばれる病院の実現、③地域社会が求める病院への転身、との導入目的実現への努力と実績は、全国医療機関のモデルです。引き続いてのフロンティア開拓に期待申し上げます。



四国中央市長

大西　賢治

50周年を明るい未来への善進の契機に

Profile

1963年5月18日生 62歳 おうし座。血液型A型。早稲田大学法学部卒業。令和7年4月 第3代四国中央市長に就任。座右の銘：逆風満帆。趣味 DIY、アウトドア。

石川ヘルスケアグループ創立50周年に際し、心よりお祝いを申し上げます。

永きにわたり新宮診療所で地域医療を支えて戴きました石川粲一会長をはじめとする貴グループにおかれましては、半世紀にわたり地域に根差した医療・福祉の充実に多大なるご貢献を戴いており、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

ご案内のとおり、人口減少・少子高齢化が加速する中、医療資源の効率的活用や医療アクセスの確保など、将来に向けた地域医療提供体制の維持確保は本市における最重要課題の一つでございます。

この記念すべき節目を機に、貴グループと本市の協働の絆を大切にしつつ、複雑・多様化する地域医療やヘルスケアの諸課題に対し、共に立ち向かい、そして乗り越え、四国中央市の明るい未来へ善進してまいりたいと存じております。

結びに、貴グループの限りないご発展と、石川粲一会長並びに貴グループ皆様の益々の御健勝と御多幸を心からご祈念申し上げます。

宇摩医師会 会長

藤田　新

四国中央市の医療を支えて50年

Profile

1983年順天堂大学医学部卒業、内科研修の後1985年順天堂大学医学部膠原病内科入局。1996年医療法人川関高橋医院に勤務、2010年より同院長。2022年より宇摩医師会長。

石川ヘルスケアグループ50周年記念、誠におめでとうございます。

石川ヘルスケアグループ様は石川外科医院の開設から現在に至るまで宇摩圏域の医療を中心となって支えて下さり、今や四国中央市にとって必要不可欠な存在です。救急医療はもちろん、介護・福祉分野でも幅広くご対応下さり、いつまでも住みなれた街で暮らすことのできる環境づくりに貢献してこられましたことに感謝申し上げます。

また、様々な研修会や講演会も催され、我々医療従事者の知識のアップデートにも貢献してこられましたことにも御礼申し上げます。

更にIT端末を日常診療の現場にいち早く導入されるなど、常に先進的な取り組みをなされており、そのアクティブな姿勢にも驚かされております。

宇摩医師会を代表いたしまして石川ヘルスケアグループ様の今後の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

地域の医療等を担う中核的組織として一層の発展を

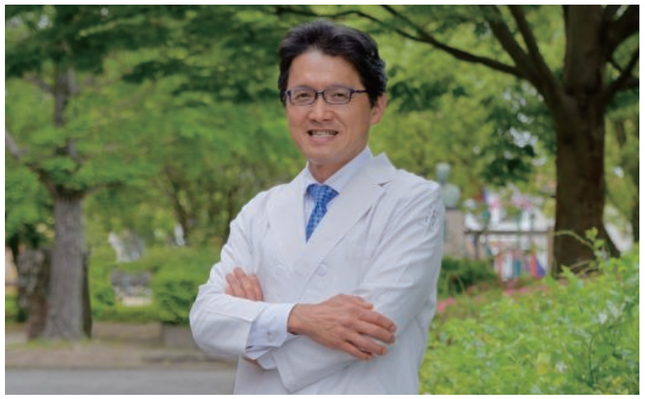
愛媛大学学長
仁科　弘重

Profile

1978年東京大学農学部卒業、1980年東京大学助手。1986年愛媛大学助教授、1998年教授、2011年農学部長、2015年理事・副学長、2021年学長。2017～2023年日本学術会議会員。

石川ヘルスケアグループの50周年、誠におめでとうございます。貴グループは、「いきるを支える」医療・介護・福祉を実現し、地域のみなさまの健康や社会の発展に貢献し続けられる病院の運営を目指しておられます。愛媛大学も、「『知』を生み出し、人を育て、ダイバーシティでグローカルな社会を構築する」ことを目指し、全世代対応型の「地域における知の拠点」としての多機能化に取り組んでいます。

貴グループは、次世代の医療・介護・福祉を志向され、医療DXに積極的に取り組まれています。また、本学医学部とも、多面的に連携させていただいています。今後も、本学、医学部、附属病院との連携を強化していただきたく、お願いいたします。



医療DXの革命児HITO病院 ～医療界の革命を四国中央市から～

徳島大学病院 病院長
徳島大学医学部整形外科 教授
西良　浩一

Profile

1988年　徳島大学卒業
2013年　徳島大学医学部 教授
2025年　徳島大学病院病 院長

石川ヘルスケアグループ50周年という大きい節目を迎えたとのこと、誠におめでとうございます。

私は若い頃、師匠から「医師とは、人・医者・学者の順番」と教わりました。HITO病院はまさに、私の座右の銘を実践する「人：HITO」を大切にする病院といえます。四国中央市という地方にありながら、都市部でも実現できていないDX推進を行なっています。全職種がデジタルを武器に、業務フローの可視化、生成AIの活用など、まさに医療DXの革命児と言える華々しい活躍をしております。今後の50年の発展・進化、同じ四国の大学病院として注目しております。

創立50周年に寄せて －さらなる「HITO」中心の医療へ－

愛媛大学医学部附属病院 病院長
杉山　隆

Profile

2015年9月大学院医学系研究科 教授、2018年4月医学部附属病院 副病院長、2021年4月副学長（病院運営・地域医療担当）、2021年4月医学部附属病院長。

石川ヘルスケアグループが創立50周年の佳節を迎えられますこと、謹んでお慶び申し上げます。

当院も2026年10月に開院50周年を迎えるにあたり、貴グループと築いてきた連携の歩みを改めて振り返り、そのありがたさと重みを深くかみしめております。

これまで共に宇摩圏域における地域医療再生を目指し、HITO病院内への「地域サテライトセンター」の設置や、現場での臨床研究や本学医学生を含む人材育成の機会提供など、多方面でご支援を賜りました。今後も連携・協力をさらに深めてまいりたいと存じます。

貴院のますますのご発展を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立50周年を寿ぐ

香川大学医学部附属病院 病院長
杉元　幹史

Profile

1992年香川医科大大学院医学研究科博士課程修了、2018年香川大学医学部泌尿器科学教授就任、2021年副病院長就任、2025年病院長就任。

このたび、貴グループが創立50周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

半世紀にわたり地域医療の充実と発展に多大なるご貢献を重ねてこられましたことに、深甚なる敬意の意を表します。

今後とも、貴院がさらなる飛躍を遂げられ、地域の皆様にとってかけがえのない存在であり続けられますことを、心より祈念申し上げます。

地域のニーズに使命感で応えてきた50年

四国中央商工会議所 会頭
四国紙販売株式会社 代表取締役会長

井川　髙幸

Profile

1975年大王製紙株式会社 入社、1996年大王製紙株式会社常務取締役、1999年四国紙販売株式会社 代表取締役社長、2024年四国紙販売株式会社 代表取締役会長、2025年10月四国中央商工会議所 会頭。

このたび、石川ヘルスケアグループ50周年という輝かしい節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

昭和51年に会長が石川外科医院を開院されて爾来50年、地域貢献への強い使命感と溢れる情熱、そして卓越した先見性により地域医療介護の中核としてゆるぎない存在となられました。

会長、総院長はじめ職員の皆様の長年に亘るご尽力に改めて敬意を表します。地域の人々に安心と信頼を与えるIHGは我々にとってかけがえのない存在です。

今後ますますのご発展と、理事長はじめ職員の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

新たな未来へ、50年の歩みと共に

大王製紙株式会社
代表取締役 社長執行役員

若林　頼房

Profile

1984年入社。新聞用紙・洋紙営業本部長等を歴任し、2021年より代表取締役 社長執行役員（現任）。

石川ヘルスケアグループ創立50周年を心よりお祝い申し上げます。長きにわたり地域の医療・福祉を支えてこられたご功績に深く敬意を表します。弊社基幹工場である三島工場も、従業員の健康や救急医療の面で半世紀にわたり貴院に温かいご支援をいただき、そのお力添えがあってこそ今日の運営が成り立っております。

また、紙製品のお取引でも日頃よりお世話になり、心より感謝申し上げます。弊社も地元四国中央市で、製紙産業を通じて地域の皆さまとともに歩んでまいりました。これからも医療・福祉を支える貴院とともに、力を合わせて地域の発展に貢献して参りたいと存じます。

次の100周年に向けて、地域医療の中核として、益々の発展を

四国中央商工会議所 名誉顧問
福助工業株式会社 代表取締役会長

井上　治郎

Profile

2016年に四国中央商工会議所の第3代会頭、2025年10月より名誉顧問に就任。福助工業株式会社 代表取締役会長。

石川ヘルスケアグループが創立50周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

「企業は人なり」といわれますが、我々企業人にとりましては、正に社員の健康こそが社業の基礎であります。貴院が日頃から、地域の健康と安心に寄与されておりますこと、大変ありがたく感謝申し上げております。

病院経営においては、昨今の医師不足を始めとする様々なご苦労があろうと拝察いたしますが、そのような中、貴院がこれまで着実に発展を続けて来られましたそのご努力に対し、敬意を表する次第です。どうか次なる100周年に向けて、貴院が地域医療の中核として、今後ますます充実・発展されますようお願い致しまして、お祝いの言葉とさせて頂きます。

「いきるを支える」50年に敬意

ユニ・チャーム株式会社
代表取締役 社長執行役員

高原　豪久

Profile

愛媛県川之江市（現・四国中央市）生まれ。銀行勤務を経て、1991年にユニ・チャーム株式会社へ入社。2004年より現職。

石川ヘルスケアグループ様、創立50周年を心よりお祝い申し上げます。

「いきるを支える」という理念のもと、長年にわたり地域に根ざした高品質な医療・介護・福祉サービスを提供されてきたご功績に、心より敬意を表します。

貴グループのお取り組みは、ユニ・チャームが掲げる「共生社会の実現」というミッションと深く通じ合うものであり、常に患者様や利用者様を第一に考えられる姿勢に、共感を寄せております。

今後も地域の中核として、ますますのご発展を心よりお祈り申し上げるとともに、地域社会の健康と福祉の向上に貢献されることを期待しております。

沿革

1 Human st.

小さな診療所から始まった石川ヘルスケアグループの歩みは、地域の皆さまに支えられながら、医療・介護・福祉へと領域を広げてきました。時代の移り変わりとともに、私たちの果たすべき役割も変化してきましたが、根底にある「どんな患者も見捨てない」という信念は、今もなお脈々と受け継がれています。ここに記す沿革は、地域とともに歩み続けてきた私たちの挑戦と成長の軌跡であり、未来へとつながる礎の記録です。

IHG
ISHIKAWA HEALTHCARE GROUP

PICK UP 1970年4月　新宮診療所 所長を務める

PICK UP 1976年10月　石川外科医院 開院（19床）

PICK UP 1979年7月　医療法人聚愛会 石川病院 開院（80床）

1982年8月　病床数を20床増床（100床）

PICK UP 1983年4月　脳神経外科 開設

石川病院の集合写真

1983年7月　病床数を20床増床（120床）

1986年12月　病床数を35床増床（155床）

PICK UP 1986年12月　人間ドック 開設

1987年5月　人間ドック 日本病院会 認定

石川病院開設時のOP風景

1970 — 1987

1970.4

無医村の医師として新宮診療所の所長を務める

「地域医療に貢献したい」という強い思いを持っていた石川聚一は、長崎大学を卒業後、地元である旧新宮村（現：四国中央市）の診療所で医師として昼夜を問わず働いた。

1976.10

石川外科医院 開院（19床）

当時、この地域には救急患者を受け入れられる病院が十分になく、救急車は交通事故患者を香川県や徳島県まで数時間かけて搬送していた。このままでは「救える命も救えない」と考え、石川外科医院を開院した。

石川外科医院

1979.7

医療法人聚愛会 石川病院 開院（80床）

1日20件を超える救急対応に限界を感じ、病院設立を決意。理念を伝えるため大学に通い、医師派遣を依頼した結果、愛媛大学医学部第二外科の木村茂教授（当時）が賛同し、医師派遣が決定。これを受け、救急病院として医療法人聚愛会 石川病院を開院・拡大していった。

石川病院

当時の救急車

石川病院の診察風景

石川病院の回診風景

石川病院の待合室

石川病院の看護師たち

石川病院の看護師たち

1983.4

脳神経外科 開設

当時、約10万人が暮らす地域にも関わらず、脳卒中や頭部外傷に対応できる体制がなく、緊急患者は他県へ搬送せざるを得なかった。徳島大学脳神経外科に医師派遣を依頼し、松本圭蔵教授（当時）の協力を得て脳神経外科を開設し、順次拡大した。

1986.12

人間ドック 開設

健康管理事業として人間ドックを開設し、脳ドック、企業健診、市の国保ドックなどを展開。1987年には「人間ドック・健診施設機能評価」の認定を取得した。さらに、巡回バス健診「紙の町号」を開始し、地域での健診活動を広げた。

紙の町号

PICK UP 1988年12月　社会福祉法人愛美会 設立
PICK UP 1989年4月　附属保育所 開設
PICK UP 1989年10月　特別養護老人ホーム「樋谷荘」開設
1990年5月　第1回樋谷まつり 開催（以降毎年開催）
PICK UP 1991年5月　老人保健施設アイリス 開設
1991年7月　川之江市在宅介護支援センター 受託運営開始
PICK UP 1992年9月　山口誓子句碑 設置
PICK UP 1994年3月　老人訪問看護ステーションいしかわ 開設
1994年5月　MRI 導入

老人保健施設 アイリスの送迎の様子

1995年1月　老人デイ・ケア 開設
1995年4月　六地蔵尊 建立・開眼法要（以降毎年法要実施）
1995年9月　第1回ふれあいコンサート 開催（以降毎年開催）
1996年3月　巡回健診車「紙の町号」導入
1997年12月　2級ホームヘルパー養成所いしかわ 認可
1998年3月　石川病院看護婦宿舎 開所
PICK UP 1998年6月　軽費老人ホーム「ケアハウス虹の里」開設
1998年10月　「グループホーム虹の里」開設（入所定数8名）
1999年3月　1.5テスラMRI 導入
1999年10月　指定居宅介護支援事業所いしかわ 開設
1999年10月　指定居宅介護支援事業所ひのたに 開設

石川病院 デイ・ケア

1988

1988.12
社会福祉法人愛美会 設立

石川病院の満床状態が続き、治療後の患者の受け入れ先確保が課題となった。高齢化社会の到来を見据えた石川粲一は、社会福祉法人愛美会を設立。

【基本理念】　選ばれ、役に立ち、喜ばれる介護・福祉サービスを
【行動指針】　家庭のように、家族のように
人にやさしく、自分に厳しく
初心を忘れず、常に謙虚で
努力を惜しまず、労苦を厭わず
生涯勉強、日々成長
「ありがとう」と感謝の気持ちを忘れずに

1989.4
附属保育所 開設

看護師確保のため、病院附属の24時間保育所を開設し、看護師宿舎の整備も進めるなど、働きやすい環境づくりに取り組んだ。

当時の保育所の様子

1989.10
特別養護老人ホーム「樋谷荘」開設（入所定数55名）

高齢者福祉の充実を目的に特養を開設。高齢者が安心して暮らせる環境づくりへの大きな一歩となった。

レクリエーション風景

樋谷荘 外観

1991.5
老人保健施設アイリス 開設（入所定数80名）

高齢者が療養生活を送りながら在宅復帰を目指せる環境を整えるため、医療と介護の両面から支援を行える老人保健施設を開設。

1999

除幕式の記念写真

1992.9
山口誓子句碑 設置

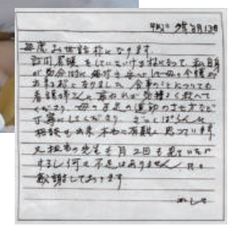
「施設のシンボルとなるようなものが必要」との想いから、俳人・山口誓子氏の句碑を設置し、除幕式を実施。句碑には自然と人との共生、人生の深みを詠んだ誓子氏の言葉を刻み、訪れる人々に安らぎを与えるものとして設置した。

ケアハウス虹の里外観

1998.6
軽費老人ホーム（入所定数50名）「ケアハウス虹の里」開設

国が認める高齢者施設として開設。日常生活に必要な支援を提供する環境を整え、地域の高齢者福祉の向上を目的とした。

当時の訪問看護の様子


当時のお礼の手紙

当時のスタッフたち

当時のスタッフたち

1994.3
老人訪問看護ステーションいしかわ 開設

介護保険制度導入前から在宅医療・福祉に取り組み、訪問看護ステーションを開設。その後、ヘルパーステーション、通所リハビリ、訪問リハビリを順次開始し、地域の高齢者が在宅で療養できる環境を整備した。

- 2000年2月　ヘルパーステーションいしかわ 開設
- 2000年2月　介護療養型医療施設 開設
- 2000年3月　通所リハビリテーション 開設
- 2000年3月　指定痴呆対応型共同生活介護事業 グループホーム虹の里 介護保険認可
- 2000年3月　リハビリ・介護サービス施設 拡充増改築
- 2000年3月　介護老人福祉施設「樋谷荘」介護保険認可 短期入所生活介護 通所介護
- 2000年4月　介護老人保健施設アイリス 介護保険認可 短期入所療養介護 通所リハビリテーション
- PICK UP 2000年8月　回復期リハビリテーション病棟 開床（49床）
- 2001年4月　「樋谷荘」愛媛県教育委員会 長期社会体験研修事業 受託
- 2001年6月　総合リハビリテーション 施設基準取得
- 2002年2月　「樋谷荘」ベット数を24床増床（入所定数79名）
- 2002年5月　マルチスライスヘリカルCT 導入
- 2002年9月　宇摩地域リハビリテーション広域支援センター 認可
- 2002年10月　日本医療機能評価機構 病院機能評価一般病院A 認定
- PICK UP 2003年9月　臨床研修指定病院 指定

ヘルパーステーションいしかわ

通所リハビリテーション 民謡教室の様子

2000

2000.8
回復期リハビリテーション病棟 開床（49床）

リハビリの早期介入による在宅復帰を見据え、新たに病棟を設置。さらに市内初の総合リハビリ施設として多数のセラピストを配置し、県から宇摩地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けた。

2003.9
臨床研修指定病院 指定

臨床研修制度の義務化により医師人材の流動化の懸念に対応するため、医師臨床研修制度の指定を取得。

臨床研修の様子

リハビリテーションの様子

- 2003年11月　院内LAN 導入
- 2004年3月　PACS（医療画像参照システム）導入
- 2004年4月　グループホームいしかわ 開設（入所定数18名）
- 2004年4月　附属保育所 新築移転
- 2004年5月　マンモグラフィー 導入
- 2005年5月　日本人間ドック学会 人間ドック・健診施設機能評価 認定
- 2005年8月　献血運動推進協力団体として厚生労働大臣より感謝状贈呈
- PICK UP 2005年12月　「樋谷荘」天皇陛下より御下賜金 拝受
- PICK UP 2006年3月　ISO9001：2000 認定取得
- 2006年3月　一般型通所介護いしかわ 開設（定員18名）
- 2006年3月　認知症対応型通所介護いしかわ 開設（定員12名）
- 2006年6月　糖尿病講座 開設
- 2006年11月　四国老人福祉学会第26回大会 開催
- 2007年3月　デイ・サービスセンター「むらまつ」開設（定員15名）
- 2007年4月　四国中央市介護予防普及啓発事業 受託
- PICK UP 2008年2月　電子カルテ 導入

附属保育所

一般型通所介護いしかわ

2008

2005.12
「樋谷荘」天皇陛下より御下賜金 拝受

県内の福祉事業所の中で唯一の選出であり、創設以来積み重ねてきた地域福祉への取り組みが評価された。

御下賜金 拝受

2006.3
ISO9001：2000 認定取得

顧客満足度の向上、業務効率化、対外的信頼の確保を図り、職員教育や組織づくりを強化した。

ISO9001認証証

電子カルテ導入前

電子カルテ導入

2008.2
電子カルテ 導入

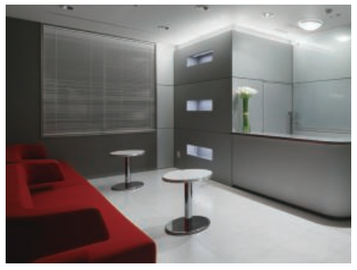
診療の質向上と業務効率化を目的に電子カルテを導入。情報を一元管理し、医師・看護師間の連携を強化、診療記録の迅速な共有と検索を可能にした。

- 2009年2月　愛媛県高次脳機能障害相談支援協力機関 指定
- 2009年3月　訪問リハビリテーション事業所アイリス 開設
- 2009年6月　DPC（診断群分類包括評価）導入
- PICK UP 2009年　県立三島病院 民間移譲
- 2010年4月　理事長・病院長が石川 賀代へ交代
- PICK UP 2010年4月　愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療再生学講座サテライトセンター 設置
- 2010年10月　第1回地域医療講演会 開催（以降毎年開催）
- 2010年11月　EPA（経済連携協定）による外国人看護師候補生 受け入れ開始
- 2011年4月　地域密着型介護老人福祉施設・短期入所（入所定数39名）小規模多機能型居宅介護（登録25名）山田井の郷 開設
- PICK UP 2011年6月　医療法人健康会 設立 石川クリニック 開院

DPC勉強会

山田井の郷外観

- 2012年2月　「ケアハウス虹の里」特定施設入居者生活介護 指定
- 2012年4月　愛媛県大学医学部附属病院との間に医療連携に関する協定を締結
- 2012年4月　愛媛県がん診療連携推進病院 指定
- 2012年5月　厚生労働省在宅医療連携拠点事業 採択
- PICK UP 2012年11月　社会医療法人認定 新法人名「石川記念会」
- 2013年1月　介護員養成研修事業者（2級課程）指定
- PICK UP 2013年4月　HITO病院 開院（許可病床数257床）
- 2013年4月　HCU（高度治療室）開床（12床）
- 2013年4月　緩和ケア病棟 開床（17床）
- 2013年6月　美容外科Be 開設


美容外科Be

2009 ―― 2013

2009

県立三島病院 民間移譲

宇摩圏域の救急医療を担う4病院のうち、県立三島病院は医師不足により、経営難に陥っていた。この状況を受け、地域医療再生計画に基づき病院の民間移譲が進められ、104床が移譲された。これに伴い、新病院の全面新築移転が決定。石川聚一が理事長・病院長を退任し、長女の石川賀代が就任した。

2010.4

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療再生学講座サテライトセンター 設置

宇摩圏域の持続可能な地域医療を目指し、当院に「サテライトセンター」が設置され、医師2名の派遣が決定。2012年には医療連携に関する協定を締結した。

サテライトセンター（設置当時）

【基本理念】　地域に選ばれ、地域を支え、地域から信頼される医療と看護・介護のケアを

【行動指針】　常に感謝と思いやりの心を持つ
日々、知識と技術の自己研鑽・自己啓発に努める
自らのプロフェッショナルとしての力を充分に発揮する

2011.6

医療法人健康会 設立 石川クリニック 開院

地域医療へのさらなる貢献を目指し、石川聚一は71歳で医療法人健康会を設立し、『石川クリニック』を開院。長年培った医療・福祉の経験を生かし、地域に寄り添う医療を実践する場とした。自ら診療にあたり、患者との対話を重視することで、地域医療の原点を再確認する機会となった。

石川クリニック開院

2012.11

社会医療法人認定 新法人名「石川記念会」

救急医療や災害医療など地域に不可欠な医療を安定的に提供するため、より公益性の高い医療の提供を目指し、医療法人から社会医療法人へ転換。

HITO病院外観

理念と基本方針

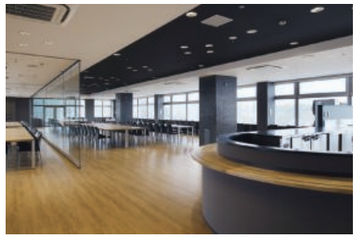
HITO VISION

ミッション	「誰からも選ばれ、信頼される病院を目指す」
経営理念	HITOを中心に考え、社会に貢献する
行動規範	Human 1st.
具体的なアクション	Humanity　患者さまを家族のように想い、温かく接します。
	Interaction　患者さまとの対話を尊重し、相互理解に努めます。
	Trust　技術と知識の研鑽に努め、信頼される医療を目指します。
	Openness　心を開き、患者さまと公平に向き合います。

2013.4

HITO病院 開院（許可病床数257床）

HITO病院誕生。石川病院の「どんな患者も見捨てない」「患者を家族のように思う」という想いを基に、理念と基本方針を確立。


HITO病院11FレストランSORA DINING

HITO病院受付

HITO病院内視鏡待合

- 2014年4月　附属保育所「HITOKIDS」新築移転
- PICK UP 2014年4月　地域密着型介護老人福祉施設 短期入所・グループホーム・デイサービスセンター三島の杜 開設
- 2014年4月　介護老人保健施設アイリス健康会にてベット数を30床増床 新築移転（入所定数110名）
- PICK UP 2014年4月　脳卒中センター 開設
- 2014年9月　地域包括ケア病棟 開床（53床）
- 2014年9月　サービス付き高齢者向け住宅レインボー 開設（入所定数40名）
- PICK UP 2015年4月　特別養護老人ホーム豊寿園・短期入所・老人デイサービスセンターひうち荘 四国中央市より移譲
- 2015年7月　創傷ケアセンター 開設
- 2015年9月　定期巡回・随時対応型訪問介護看護いしかわ 開設
- PICK UP 2015年10月　障がい者デイサービスひのたに 開設

三島の杜外観

定期巡回・随時対応型訪問介護看護いしかわ

- 2015年11月　糖尿病センター 開設
- 2016年4月　人工関節センター 開設
- 2017年1月　未来創出HITOプロジェクト 開始
- 2017年1月　統合型歩行機能回復センター 開設
- PICK UP 2017年4月　特別養護老人ホーム萬翠荘・短期入所 居宅介護支援事業所すいは 老人デイサービスセンターみどり荘 四国中央市より移譲
- PICK UP 2017年4月　養護老人ホーム敬寿園 四国中央市より移譲
- 2017年4月　ヘルパーステーションいしかわ 障がい者サービス（居宅介護、重度訪問介護）指定
- 2017年7月　術中CT AIRO 日本初導入

ヘルパーステーションいしかわ

AIRO

2014　2017

2014.4

地域密着型介護老人福祉施設 短期入所（入所定数39名） グループホーム（入所定数18名） デイサービスセンター（定員12名） 三島の杜 開設

四国中央市第5期介護保険事業計画の公募事業に愛美会が開設事業者として選定。市内中心部で、地域の財産となるよう、特養・短期入所・グループホーム・デイサービスを併設し総合的なサービス拠点となっている。

三島の杜・石川クリニック・アイリスの竣工式

2014.4

脳卒中センター 開設

【センターについて】
高度急性期から、がん・脳卒中・心疾患・糖尿病の4疾病を中心とする専門治療を見据え、5つのセンターを設置。センター化により専門性の高い医療体制を整備し、スペシャリストによる多職種協働のチーム医療を推進した。
【脳卒中センターについて】
一刻を争う脳卒中に対し、より迅速な診断・治療を提供するために開設。宇摩圏域内で唯一の施設として体制を整えた。

豊寿園外観

2015.4

特別養護老人ホーム豊寿園・短期入所（入所定数60名） 老人デイサービスセンターひうち荘（定員25名） 四国中央市より移譲

四国中央市が進める高齢者施設の民間移譲に伴い、公募により特別養護老人ホーム豊寿園、老人デイサービスセンターひうち荘の運営法人として愛美会が採択された。この移譲は、地域に根ざした福祉の充実を目指す当法人にとって大きな節目であり、これまで培った医療・介護の経験を活かし、質の高いサービス提供に向けた新たな挑戦となった。

2015.10

障がい者デイサービスひのたに 開設（定員20名）

排泄・食事の介助を受けながら、機能訓練や創作的活動の機会の提供を受ける障害者総合支援法に基づいた生活介護事業所。

利用者と企業とのコントローラー開発（eスポーツ）

2017.4

養護老人ホーム敬寿園 四国中央市より移譲（入所定数50名）

地域福祉のさらなる充実を図るため、養護老人ホーム敬寿園の運営を、愛美会がアイリス移転後の跡地を改修し、引き継ぐこととなった。

敬寿園外観

2017.4

特別養護老人ホーム萬翠荘・短期入所（入所定数90名） 居宅介護支援事業所すいは 老人デイサービスセンターみどり荘（定員30名） 四国中央市より移譲

四国中央市の公募により、愛美会が特別養護老人ホーム萬翠荘、居宅介護支援事業所すいは、老人デイサービスセンターみどり荘の運営に選定、地域福祉のさらなる充実を目指す取り組みを進めた。

萬翠荘外観

デイサービスの様子

PICK UP 2018年1月　絆プロジェクト 開始

2018年4月　総合診療専門研修プログラム 開始

2019年4月　一般社団法人日本脳卒中学会「一次脳卒中センター」認定

2019年6月　外国人技能実習生 導入

2019年7月　脳卒中ホットライン 開設

PICK UP 2019年8月　機能回復センターHITO Plus 開設

2020年1月　日本看護協会
「看護業務の効率化先進事例アワード2019」優秀賞

2020年5月　オンライン診療 開始

PICK UP 2020年5月　石川 棨一 藍綬褒章 受章

看護業務の効率化先進例アワード

オンライン診療

2020年5月　ケアHOMEピース 開設（登録29名）

2020年10月　萬翠荘ベット数を54床増床（入所定数138名）

PICK UP 2021年4月　香川大学 医学部・医学系研究科
肝・胆・膵内科学先端医療学講座 設置

PICK UP 2021年4月　心・脳血管疾患センター 開設

2021年5月　SCU（脳卒中集中治療室）開床（6床）

PICK UP 2021年8月　看護師特定行為研修指定研修機関 指定

2021年9月　徳島大学大学院
医歯薬学研究部 地域脳神経医療学分野 設置

2021年9月　愛媛県救急医療功労者知事表彰 受賞

SCUのカンファレンス風景

2018

2018.1

絆プロジェクト 開始

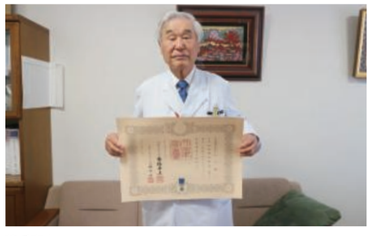
地域包括ケアシステムの推進に向け、市民・行政・医療機関・企業と連携し、未病・予防・健康増進を図るプロジェクトを開始した。

絆カード

2020.5

石川 棨一 藍綬褒章 受章

長年にわたり地域医療・福祉の発展に尽力してきた功績が認められ、石川棨一が藍綬褒章を受章。この栄誉は、地域に根ざした医療・介護の実践を通じて多くの人々の生活を支えてきた取り組みの成果であり、法人の歩みが社会的にも高く評価された証となった。


藍綬褒章

装着型サイボーグを用いたトレーニングの様子

2019.8

機能回復センターHITO Plus 開設

脳卒中後遺症のある方を対象としたフィジカルトレーニング施設を開設。最新の装着型サイボーグを用いたトレーニングも導入した。

HITOPlus内観

2021

2021.4

香川大学 医学部・医学系研究科 肝・胆・膵内科学先端医療学講座 設置

香川大学との連携により、肝臓・胆嚢・膵臓疾患の高度医療を提供体制と、若手医師の育成を目的に設置。

超音波内視鏡下穿刺吸引術（EUS-FNA）

心・脳血管疾患センター開設

2021.4

心・脳血管疾患センター 開設

脳卒中センターから心・脳血管疾患センターへ変更。心臓病と脳卒中という緊急性の高い疾病に24時間365日対応できる体制を整え、SCUを開床した。

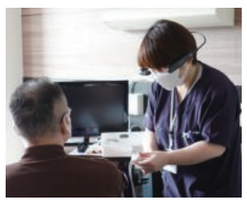
看護師特定行為研修 開講式

2021.8

看護師特定行為指定研修機関 指定

ケアミックス型で多職種協働のチーム医療を推進している当院の強みと、後方支援や在宅医療部門を持つ石川ヘルスケアグループの強みを活かし、幅広い分野で活躍できる看護師の育成を目指して開設。

- 2022年1月　脳画像解析プログラム「iSchema View RAPID」四国初導入
- 2022年3月　第二種感染症指定医療機関 指定（4床）
- 2022年4月　内科専門研修プログラム 開始
- PICK UP 2022年9月　令和4年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰 受賞
- 2022年11月　「多職種協働セルケアシステム」商標登録
- 2023年1月　日本看護協会「看護業務の効率化先進事例アワード2022」優秀賞
- PICK UP 2023年3月　四国中央市と「災害時における指定福祉避難所の設置運営に関する協定」締結
- PICK UP 2023年4月　石川聚一医療・介護教育支援助成金制度 創設
- 2023年7月　「スマートグラスを活用した未来型看護の実証実験」開始
- 2023年7月　病院広報アワード2023 初代「病院広報アワード大賞」受賞
- 2023年8月　経尿道的前立腺吊り上げ術「UroLift」愛媛県初導入
- 2023年9月　紹介受診重点医療機関 指定


スマートグラスを活用した見守り看護

- PICK UP 2023年10月　一般社団法人i shikoku holdings 開設
- 2023年10月　内視鏡センター 開設
- 2024年1月　スマートグラスによる遠隔診療実現に向けたクラウドファンディング 実施
- PICK UP 2024年1月　戦略的病床ダウンサイジング（228床）
- 2024年4月　DMAT（災害派遣医療チーム）隊員 誕生
- 2024年7月　第一・二種協定指定医療機関 指定
- 2024年7月　ドクターカー 導入
- 2024年10月　検疫感染症疾患者等に係る入院委託協定
- 2025年2月　ロボティックアーム手術支援システム「Makoシステム」東予初導入
- 2025年5月　介護老人保健施設アイリス ノーリフティング推進事業所 選定
- 2025年11月　石川 聚一 瑞宝双光章 受章
- 2026年1月　デイサービスしろした 新築移転予定（定員30名）

デイサービスしろしたを新築移転予定

2022 — 2025

2022.9

令和4年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰 受賞

多年にわたり地域の救急医療に貢献した功績が評価され、国から表彰を受けた。

2023.4

石川聚一医療・介護教育支援助成金制度 創設

次世代の医療・介護を担う人材育成を目的に、石川聚一が私財を投じて基金を設立し、働きながら資格取得に挑戦する職員を支援する制度を創設した。

2023.3

四国中央市と「災害時における指定福祉避難所の設置運営に関する協定」締結

災害時において、特に支援が必要となる高齢者や障がい者の人の安全を確保するため、四国中央市と「災害時における指定福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結した。この協定は、地域の福祉施設が災害時における避難の受け入れ先として機能する体制を整えるものであり、愛美会が地域防災の一翼を担う重要な役割を果たすことを意味している。

避難所運営の模擬体験

災害発生時の対応を学ぶ出前講座

Makoシステム

2023.10

一般社団法人i shikoku holdings 開設

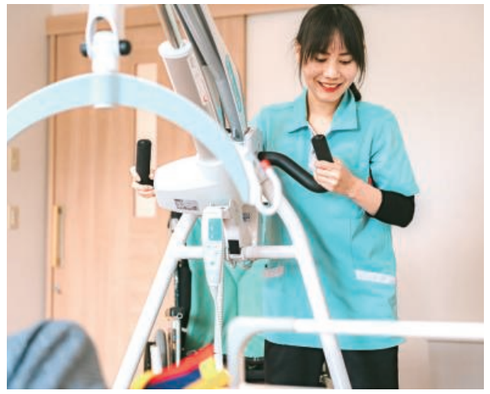
石川ヘルスケアグループ内の人的資源を有効に活用するとともに、地域社会の持続可能性を高めるプラットフォームとして設立した。

i・shikoku holdings

2024.1

戦略的病床ダウンサイジング（228床）

高齢者人口がピークを迎える2040年に向けて、戦略的なダウンサイジングによる生産性向上の実現を決断。


ノーリフティング推進事業所

ドクターカー

石川聚一物語

The Story of Keiichi Ishikawa

親子で同じ志を持ち、共に医療に携われることに、心から感謝しています。忙しい日々の中、子どもたちとデパートに行く時間もなかったのですが、そんな私の姿を見て医師を志してくれたことは、何より嬉しいことでした。家族はもちろん、本当に多くの方々に支えられて、ここまで歩んでくることができました。

時代とともに地域のニーズは変化し、病院だけでは支えきれない現実に直面しました。そこで、特養や老健を整備し、切れ目のない支援体制を築いてきました。病院機能評価の取得に向けては職員と共に学びを深め、電子カルテも早期に導入。次世代の育成にも力を注ぎ、臨床研修制度をいち早く整えました。さらに、人間ドックの開設や健診・訪問活動を通じて、地域との信頼関係を育んできました。

がむしゃらに進むのではなく、「今、何が必要か」を常に問いながら、医療・介護・行政・地域——そのすべてが繋がる仕組みを築いてきたことが、今の私たちの姿につながっているのだと思います。

これからも、人口減少や医療・介護従事者不足といった課題に真正面から向き合い、地域と共に新しい可能性をきり拓いてまいります。

1940年	愛媛県四国中央市上分町にて出生
1955年	土佐高校編入
1967年	長崎大学医学部卒業
1970年	新宮診療所 所長就任
1976年	石川外科医院 院長就任
1979年	医療法人聚愛会 石川病院 理事長就任
1988年	社会福祉法人愛美会 理事長就任
2010年	医療法人聚愛会 石川病院 名誉院長就任
2011年	医療法人健康会設立 理事長就任
2011年	医療法人健康会 石川クリニック 院長就任
2014年	愛媛県老人保健施設協会会長表彰
2015年	全国老人保健施設協会表彰
2016年	厚生労働大臣表彰（介護老人保健施設関係事業）
2020年	藍綬褒章受章
2022年	愛媛銀行ふるさと振興賞受賞
2023年	石川聚一医療・介護教育支援助成金制度 制定
2024年	四国中央市発足20周年記念式典にて功労賞受賞
2025年	瑞宝双光章受章

すべてのはじまり

中学2年生のとき、担任教諭から「町内には医師がいない。将来、誰か医師になって地元で頑張ってほしい。」との言葉を受け、医師を志す決意を固めた。教員だった父親は「このままではいけない」と一念発起させ、中高一貫の土佐高校へ試験を受けて編入するよう命じた。

「誰も見捨てない」という信念

「家族や消防からの救急依頼は絶対に断るな」と職員に徹底していた石川聚一。電話受付で即断できる体制を整え、水銀灯をつけ、明るく地域の命を守る医療の最前線を担った。

「時間外の診療も明るい顔で気持ちよくやろう」

救急病院では夜間の呼び出しも多いが、彼は「ぐっとこらえて笑顔で対応しなさい。そこで一つ成長できる。」と職員を励ました。その言葉には、患者への思いやりと医療人としての成長への願いが込められていた。

「大切な家族を預かっている責任を常に忘れない」

患者・利用者の人生の最期に寄り添うことを大切にしている石川聚一は、体調の変化があれば速やかに家族へ連絡し、できる限り最期の時間を共に過ごせるよう配慮。その姿勢は信頼を築くうえで欠かせないものであり、利用者と家族の絆を大切にする看取りの在り方と考えていた。

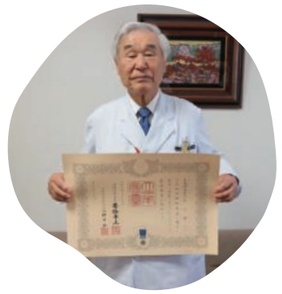
職員を家族のように思う優しさと温かさ

職員との信頼関係も大切にしていた石川聚一は、毎年希望に沿った社員旅行の企画や、結婚式には必ず出席するなど、温かな交流を重ねた。さらに、「努力する人が金銭的理由で資格取得を諦めるのは酷だ」と考え、「石川聚一医療・介護教育支援助成金制度」を制定。職員のスキルアップと将来を支える姿勢には、深い優しさと思いやりが込められている。

85歳を迎えた今も変わらない信念

今も昼夜問わず、約600名を超える施設入居者の身体状況の変化、ターミナル時の死亡確認等を行うため、肌身離さず携帯電話を所持。85歳を迎えた今でも、24時間365日身をもって「誰も見捨てない」を体現している。

左から
妻：紀美子
長女：賀代
次女：真紀



藍綬褒章

産業振興や社会福祉、公共の仕事への貢献など、社会の利益のために尽力した人に贈られる国の表彰。

厚生労働大臣表彰

介護老人保健施設の発展や高齢者福祉の推進に長年貢献した人に対し、その功績をたたえて厚生労働大臣が贈る表彰。

狩猟

大学時代、魚屋の大将に「狩猟やってみんか？」と声をかけられ始めた。大学2年で狩猟免許を取得し、地元に戻って金田猟友会に所属、休日には仲間とイノシシやシカを追いかける日々を送っている。

盆栽

大学時代にはすでに盆栽に夢中、帰省時は大型トラックで盆栽を運ぶという"盆栽輸送業者"レベルの熱意を見せた。現在もその情熱は衰えず、育てた盆栽は数千鉢以上!

小学校や中学校の同級生、
様々な趣味や地元の友人も多く、
仕事も**趣味**も**仲間**も
本気なのが石川繁一流!

ゴルフ

腕前は「下手なゴルフ」と笑いながら語るが、楽しむことを大切に、今でも月に1度コースに出ている。

釣り

今でも釣りが大好きで、梅雨には三島沖のイシダイ釣り、春・秋は高知の沖など季節に合わせて魚釣りを楽しんでいる。

動物好き

自宅には、メダカ、土佐金、金魚、うさぎ…とにかくたくさんの生き物が暮らしているが、何匹いるかは本人も把握していない。

「繁一先生の名言紹介」

前向きな言葉を大切にしています!

人を大事にしなさい。

患者や利用者、家族、職員全員を大切にし、
思いやりを持って接する。
誰も見捨てず、全ての人に質の高いケアを提供する。

常識に捉われない!

既存の方法にとらわれず、新しいアイデアを積極的に取り入れる。
時代の変化に柔軟に対応し、将来を見据えた取り組みを行う。

現場を見なさい

人の話を鵜呑みにせず、自分の目で現場を確認する。
実際に足を運び、状況を直接見ることで、
正確な情報を得て適切な判断を行う。

やるなら徹底的に!

何事も中途半端にせず、全力で取り組む。
本気で取り組む面白さを実感しながら、常に向上心を持ち続ける。

お互い様ですからね

地域社会全体で支え合う関係を築き、職員同士も
助け合い協力する。利用者、地域の方々、職員間で、困ったときに
気軽に助けを求め合える温かいつながりを大切にする。

足で稼ゲ!

地域に積極的に出向き、顔の見える関係づくりを行う。
困ったときに頼られる存在となり、日々の地道な努力が
組織の持続的な発展につながることを理解し行動する。

出前をしなさい!

来るのを待つのではなく、自ら赴き渉外・集客する。

番外編

医師の意地　地域を守り四十有余年　コロナの春に静かな叙勲

2020年に藍綬褒章を受章した石川 繁一に、老人保健施設 たかのこ館 施設長　喜安 佳人氏（愛媛大学医学部第二外科同門会）が詠み、贈った一句。

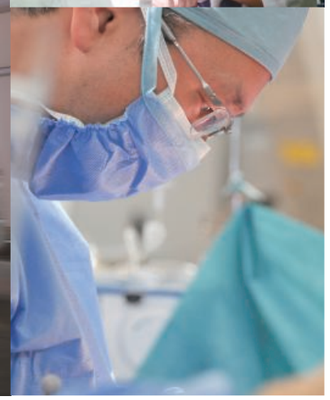
本来であれば華やかな式典が開催されるはずだったが、石川 繁一はコロナによる感染拡大の状況を考慮し参加を辞退、静かに叙勲が贈られることとなった。365日休みなく医療を提供し続け、40年以上にわたり医療・介護・福祉の発展を築いたこと、そして石川繁一の揺るぎない意志の強さを讃えて詠まれた一句である。

外部との連携
協力の歴史

1st. Human

1976年に石川外科医院として開業以来50年、「断らない救急」「誰一人見捨てない医療」を原点として、人を真ん中においた病院をコンセプトとして歩んできました。救急車を受け入れられる病院をつくることで患者さんの命を救う、という石川粲一の思いから始まり、地域の救急医療を安定的に提供するという覚悟で社会医療法人への転換を図り、2013年にHITO病院に生まれ変わりました。救急病院として地域医療に貢献することが私たちの使命です。次の50年へ、挑戦と進化を続け、人の「いきるを支える」地域社会の求める医療・介護・福祉をこれからも提供してまいります。

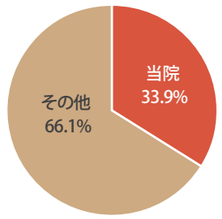
IHG
ISHIKAWA HEALTHCARE GROUP



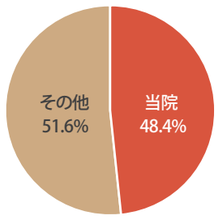
いきるを支える

救急・災害時に対応できる基盤づくり

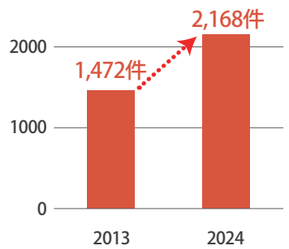
2012年度
圏域内救急搬送受入率



2024年度
圏域内救急搬送受入率



救急搬送受け入れ件数



二次救急病院としての役割と責務

HITO病院（以降 当院）は「いきるを支える」を理念に掲げ、地域の救急医療を担っています。特に救急搬送においては、消防との緊密な連携や、脳卒中が疑われる患者さんのために救急隊員と専門医を直接つなぐホットラインを整備するなど、日頃から築いてきた信頼関係が大きな力となっています。救急搬送後は、HCU（ハイケアユニット）で重症患者の治療を行える体制を整え、地域医療の砦として機能しています。さらに近年はドクターカーを導入し、グループ内外施設からの搬送や、連携医療機関への転院にも活用。地域に根差した迅速かつ柔軟な医療提供を実現し、宇摩圏域の救急医療を支え続けています。

そして今年、当院は50周年の節目を迎えます。その歩みの原点には「断らない救急」「誰一人見捨てない」という創立以来の強い思いがありました。救急を基盤とする姿勢が組織を育て、多職種の連携や高度医療の実践、地域からの信頼へとつながり、今日のHITO病院を形づくってきました。

これからも「救急」を原点に、地域とともに歩み、未来の医療を支えていきます。

救急隊と病院がつなぐ命のセーフティライン

当院は地元の四国中央消防と「顔の見える関係」を重視し、定期的な症例検討会を実施してきました。救急隊員と医療スタッフが情報や課題を共有し合うことで、互いの距離が縮まり、救急搬送前から治療へとつながる連携の質が向上しています。こうした取り組みが、市民の安心と安全を守る大きな力になっています。

さらに近年は、香川三観消防や徳島みよし消防とも信頼関係を築き、連携を広げています。地域の垣根を越えたつながりが、災害や広域での救急にも対応できる体制づくりへと発展しています。

VOICE

消防にとって、現場で安心して患者さんを託せる病院があることは、何よりの支えです。日々の活動を通じて培われた信頼関係が、地域の安全と安心を守る大きな力になっていると感じております。50年の歩みを礎に、これからも消防と医療が力を合わせ、市民の命を守る使命を共に果たしていけることを願っております。今後ますますのご発展を心より祈念申し上げます。

四国中央市消防本部消防長　坂上 和人 氏

災害時も守り続ける医療体制を目指して

当院は免震構造を有し、地震などの災害時にも安全に医療を継続できる環境を整えています。院内には災害時を想定した動線が組まれており、「ホスピタルストリート」にはトリアージ（緊急度の仕分け）に対応できる医療設備も完備。また、災害派遣医療チーム（DMAT）を結成し、行政や消防との勉強会、隣接する上分小学校や地元婦人会との合同トリアージ訓練など、地域と連携した防災活動を進めています。

さらに、院内外でのイベントを通じて地域の皆さんに防災意識を高めていただく取り組みも開催。医療機関としての役割にとどまらず、地域全体の防災力を高めることにも力を注いでいます。

▲トリアージ訓練

▲防災キャンプ

▲DMAT

【Point】

西日本豪雨や能登半島地震など、国内で発生した大規模災害に医療スタッフを派遣し、現地での医療支援を行ってきました。あわせて、支援物資の提供や募金活動にも取り組み、職員と地域が一体となって被災地の復興に貢献しています。

地域のニーズに応える高度医療と疾患別センターの確立

一分一秒を争う心臓・脳の病気に24時間365日対応 心・脳血管疾患センター

「心疾患」「脳血管疾患」は、日本人の死因の第2位を占めており、超高齢社会の進展とともに、その診療体制整備の重要性は一層高まっています。これらの病気は、発症から治療開始までの時間が短いほど良好な結果が期待できるため、県外搬送に頼らず“この圏域で救う”という強い使命感のもと、24時間365日の受入体制を整えてきました。

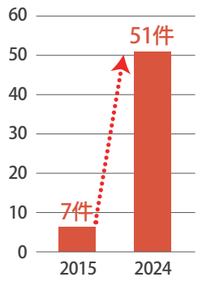
2021年5月には、専門病棟であるSCU（ストロークケアユニット）を開設し、発症直後の血管内治療からリハビリ、その後の再発予防のための薬物治療や生活指導まで切れ目のない質の高い医療を提供しています。

この体制によって、患者さんが要介護状態にならずに自分らしく、安心して暮らし続けられる地域づくりに貢献しています。

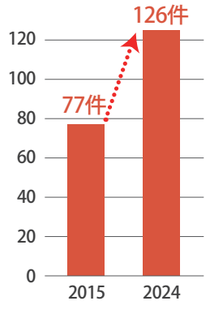
脳画像解析プログラム「iSchema View RAPID」導入

脳血管疾患の急性期治療成績向上に向けて導入。医師の目とAIによる解析マップの活用でより適切かつ、迅速な診断が可能。

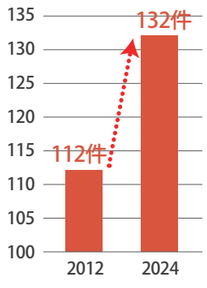
脳血管内手術件数



心疾患（PCI）手術件数



脳卒中搬送件数



予防から治療まで、ここで支える暮らし 糖尿病センター

四国中央市の糖尿病患者は2000人、予備軍を含めると5000人と推測される中で、現在糖尿病療養指導士の資格を持った13人の専門職が多職種による治療サポートや、予防啓発、医療者への教育など、糖尿病に関する包括的な活動を行っています。

治療においては、食事・運動・内服など、日常生活にも深く関わる治療サポートを患者さん一人ひとりに合わせて多職種が行っています。

11月14日「世界糖尿病デー」に合わせた様々な啓発活動を実施

▲糖尿病講座

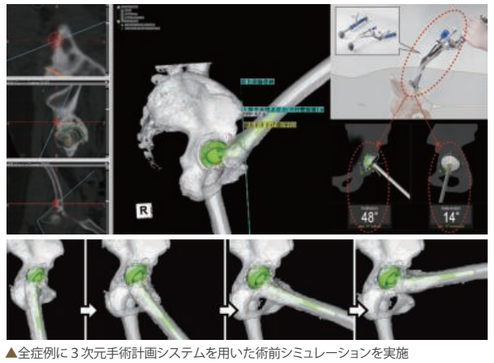
▲ウォーキングイベント

▲楽しく学べる教育動画

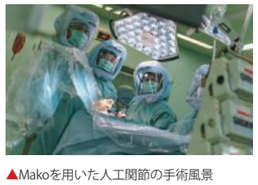
▲世界糖尿病デーのシンボル「ブルーサークル」をモチーフにしたオリジナルグッズ

歩く喜びをともに創る人工関節センター

高齢化の進展に伴い増加が見込まれる変形性膝関節症、変形性股関節症に対し、多職種が連携し、手術前の評価から術後のリハビリ、社会復帰までを一貫して支援する体制を整備してきました。より安全で正確な手術を提供し、治療の選択肢を広げるため、2025年2月に人工関節手術ロボット「Mako」を導入。当院の強みであるケアミックスの病床とロボットリハビリを含めた切れ目のないリハビリの体制と合わせて、患者さんの早期の機能回復と生活の質向上を目指しています。



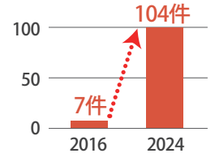
▲全症例に３次元手術計画システムを用いた術前シミュレーションを実施



▲Makoを用いた人工関節の手術風景

▲市民公開講座の開催

人工関節手術

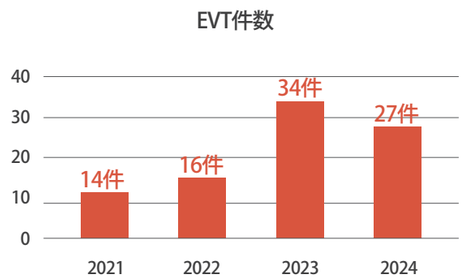


治りにくい傷を専門医や多職種で治療する創傷ケアセンター

当院では、褥瘡（じょくそう）や慢性下肢潰瘍といった治りにくい傷に対応するため、専門的な治療を行う「創傷ケアセンター」を開設。形成外科を中心に、循環器内科や外科、看護師をはじめ多職種が連携し、治療から回復後のケアまでを一貫して支援できる体制を整えています。

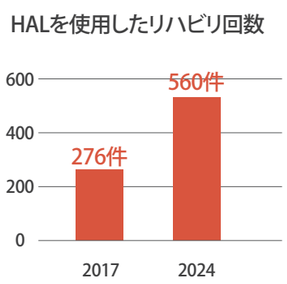
高齢化が進むこの地域において、医療と介護をつなぎ、命と生活の質を守る拠点として機能しています。

▲医療従事者向け　四国中央市床ずれを考える会



「歩くを支える」統合型歩行機能回復センター

「いつまでも自分の足で歩きたい」という願いを支えるため、診療機能を統合して歩行機能の回復に取り組む 統合型歩行機能回復センター を開設。その人らしい生き方と社会参加を支えることを目指しています。2016年に保険適応となったロボットスーツHAL®（Hybrid Assistive Limb）医療用下肢タイプを導入し、緩徐進行性の神経・筋疾患で歩行機能が低下した患者さんに対し、最先端のサイバニクス治療を提供しています。疾患名ではなく「歩きにくい」という患者さんの視点から課題を捉え直し、歩行再建への挑戦を続けています。



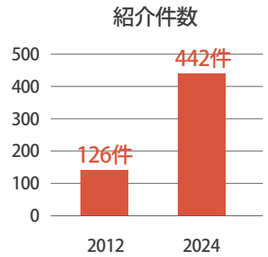
▲HAL®医療用下肢タイプ

医療従事者との連携でより強化する地域医療

医療機関との連携で支える地域医療

HITO病院開院以来、地域の医療機関との連携強化にも力を注いでいます。開業医の先生方を中心に年間150件を超える渉外活動を行い、市外や県外の医療機関との連携も広がっています。

また、患者さんが地域の中で切れ目なく医療を受けられるように「登録医制度」を導入。地域の医療機関との連携をさらに深め、多様なニーズに応えられる体制づくりを進めています。



VOICE

石川ヘルスケアグループ創立50周年おめでとうございます。昭和51年石川外科医院として開院ののち、長年にわたり救急医療をはじめ、総合診療科を含む各診療科での的確な診断、治療に加え、介護分野でも多大なる地域貢献をしていただいており、我々地元の開業医にはなくてはならない存在です。また、私事でありますが、母が昨年までコロナ禍の大変な時期に「三島の杜」で楽しく過ごさせていただきました。あわせて深謝いたします。

終わりに、石川ヘルスケアグループのさらなる発展を祈念いたします。

医療法人柏寿会 福田医院 院長　福田 保 氏

医師やメディカルスタッフが講師となり、開業医や医療・介護従事者を対象とした症例検討会や勉強会を開催。最新の知識や実践的な症例を共有することで、地域全体の医療力を高めるとともに、多職種連携を促進。地域の医療を支える絆づくりにもつながっています。

▲医療従事者向け講演会

寄附講座を通じた専門医療の強化と地域貢献

宇摩圏域の医師不足により、2010年、愛媛県による地域医療再生計画の一環として、愛媛大学大学院医学系研究科地域医療再生学講座が開設。この取り組みにより、医師が派遣され、地域の持続可能な医療体制の確立に大きく寄与してきました。

2021年には、香川大学医学部・医学系研究科 肝・胆・膵内科学先端医療学講座および徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域脳神経医療学分野が新設され、大学との連携はこれまで以上に強化されました。これにより、専門性の高い診療や先端的医療の提供が可能となり、地域住民に安心と信頼を届けています。

VOICE

石川ヘルスケアグループの開設50周年を心よりお祝い申し上げます。地域医療再生学講座では、常に宇摩圏域の医療課題に向き合い、石川病院やHITO病院との連携を深めながら、地域に根差した医療を実践してまいりました。現在は3名の医師が大学とHITO病院サテライトセンターで診療・教育・研究を担っております。診療面では、脳神経外科が脳卒中診療のシームレスな提供を、整形外科が骨の健康維持と最新関節治療に取り組んでいます。

今後も四国中央市民の健康寿命延伸を目指して活動を続けてまいります。

愛媛大学大学院医学系研究科
地域医療再生学講座　主任教授　間島 直彦 氏

▲間島直彦氏(左)と
香川大学医学部・医学系研究科
肝・胆・膵内科学先端医療学講座
客員准教授 小林聖幸氏(右)

最期までその人らしくいきるを支える

緩和ケアで支える“その人らしさ”

超高齢化により、生涯のうちにがんにかかる人の割合は増え続けています。しかし、心身の苦痛を和らげる緩和ケアを専門的に提供できる場はまだ限られています。当院は「最期までその人らしく生きる」ことを支えるため、2013年に地域で唯一の緩和ケア病棟を開設しました。

終末期の方だけでなく、がんと診断されたすべての方に適切なケアを届けるため、SCT（サポーティブケアチーム）を結成。さらに、「生と死を考える会」も立ち上げ、人生の終わりをどう迎えるかを考える場を設け、自分らしい最期を選ぶきっかけづくりにも取り組んでいます。

▲緩和ケアや遺族の方の講和による市民公開講座

▲がんの方とその家族を対象としたHITOサロンの開催

在宅医療で支える“自分らしい暮らし”

「住み慣れた自宅で療養したい」という想いに応えるため、訪問診療や訪問看護・リハビリ・介護など、多職種が連携して自宅での生活を継続できるよう支援しています。

特に訪問看護では10名以上の看護師が在籍し、24時間365日いつでも緊急訪問ができる体制を整えています。特定行為研修を修了した看護師も3名在籍し、専門的な知識と技術を活かした質の高いケアを提供しています。

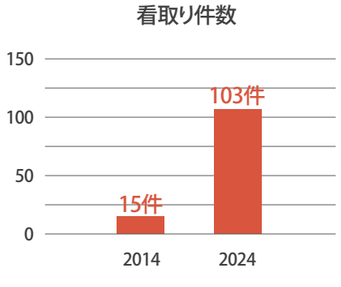
2019年度
訪問関連の利用者数
のべ44,975人

→ 約5,000人増加

2024年度
訪問関連の利用者数
のべ49,220人

看取りケアで支える“安心の最期”

石川クリニックでは、「最期まで安心して過ごせる医療」を目指し、看取りケアの体制を整えています。利用者一人ひとりの人生に寄り添い、尊厳を守る医療の提供を大切にしています。グループ内外の介護施設と連携し、緊急時の往診にも対応。看取りまで一貫して支えることで、利用者とご家族に安心と信頼を届けています。



コロナ禍に刻まれた感謝と使命

新たな感染症に対応する医療体制と使命感

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以降 コロナ）の拡大時、当院は「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として指定を受け、地域医療の中心として役割を果たしました。感染症病床の確保や発熱外来の設置をいち早く行い、行政や近隣医療機関と連携しながら、職員一人ひとりが強い使命感を持って対応しました。

さらに2022年には、第二種感染症指定医療機関としての指定を受け、今後も新たな感染症流行に備え、平時から感染症医療の専門性と対応力の強化に努めています。

病院と企業が協働して生まれた防護具

2020年のコロナ禍、当院では医療従事者を院内感染から守るため、地元企業・高津紙器株式会社と協力してアイシールドを開発。医療スタッフと試作を重ね、現場の声を反映した防護具は迅速に製品化。実際に医療の現場で活用され、大きな力となりました。

支え合いが生んだ絆の力

コロナの感染拡大で、病院や施設にクラスターが発生した際、私たちは地域の皆さまから数えきれないほどの温かいご支援をいただきました。

企業や団体、個人の方々からは、マスクや防護具、食品、飲料などの物資提供に加え、ホテルの宿泊提供や差し入れ、さらには心のこもった応援メッセージが数多く寄せられました。その一つひとつが、疲弊する職員の心を支え、前へ進む力になりました。

また、その感謝を胸に地域の医療機関や介護施設でクラスターが発生した際には、私たちが応援に駆けつけることもありました。

コロナという試練を通じて、医療・介護・福祉の枠を超え、「地域の医療は地域全体で支えていく」という絆と信頼がこれまで以上に深まったと実感しています。

いきるを楽しむ

地域と共に創る 顔が見えるコミュニティ

イベントで育む地域との絆 笑顔の50年

石川ヘルスケアグループ（以降 当グループ）は、50年にわたり地域の皆さまと共に歩み、笑顔を育んできました。健康づくりや交流を目的としたイベントの開催、また、地域行事にも積極的に参加し、顔の見える関係を育むことで、より深い信頼関係を築いてきました。これからも地域と共に歩み、笑顔あふれる未来を目指して活動を続けてまいります。

▲グループ主催：院内コンサート

▲グループ主催：HITOフェスタ

▲グループ主催：花火大会

▲グループ主催：愛美会まつり

グループ主催：餅つき▶

▲地域主催：四国中央紙まつり

▲地域主催：みなと祭

地域主催：
金生川ラバーズ▼▶

▲地域主催：清掃

笑顔と元気が集うオープンスペース

毎月第3日曜日には「ハートフルサンデー」を開催し、介護施設を地域の皆さまに一部開放しています。健康やリハビリに関するアドバイスを行ったり、住民同士やスタッフとの新しいつながりが生まれたりと、人と人が集い、笑顔あふれる交流の場となっています。

VOICE

今は介護の助けは必要ではありませんが、いつかお世話になるときがあると考えると、スタッフの皆さまと一緒に、自身の健康維持に繋げることができるのはとてもいい機会で、毎月楽しみにしています。

76歳女性参加者

VOICE

夫をアイリスで看とっていただき、引きこもりがちでしたが、スタッフの方から紹介していただき、今も通っています。今では月1回の楽しみになっています。

78歳女性参加者

365日笑顔あふれる日々を共に過ごす

愛美会・健康会では、利用者さんが「いきるを楽しむ」時間を笑顔で過ごせるよう、季節ごとの行事やボランティア団体による演奏会など、多彩なイベントを開催。様々な交流を通じて、地域に根差したつながりを大切にしています。

春 spring

お花見

外出訓練・社会交流

ひな祭り

節分

夏 summer

かき氷

シャボン玉芸

流しそうめん

ひまわり鑑賞

秋 autumn

ハロウィン

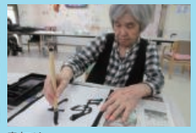
運動会

太鼓台受け入れ

六地蔵尊法要

冬 winter

芋炊き



書初め

初詣

焼き芋

未来へつなぐ、いきがいのある社会づくり

地域と広げるヘルスリテラシー

学びで広げる 健康なまちづくり

市民や企業を対象に、疾病予防や運動療法などをテーマとした講演会や勉強会を定期的に開催。医療・介護・福祉に関する最新の知識を共有することで、地域の健康意識の向上を図っています。こうした活動を通じて、地域課題への理解を深めるとともに、誰もが安心して暮らせるまちづくりにつなげています。

◀市民公開講座

健康づくりサポーター養成講座▶

医療とメディアが繋ぐ、信頼の情報発信

地元テレビ・四国中央テレビと診療科が連携し、健康啓発番組を共同制作しています。医療現場の専門性とメディアの発信力を融合させることで、地域の皆さまに「分かりやすく、信頼できる」健康情報を届けています。

【Point】

ロコモ～体操放送回数
- vol.1（首と肩・腰編） 計15回放送
- vol.2（股関節・膝・二重課題編） 計16回放送

▲循環器内科医師・リハビリスタッフ・栄養士と患者さんの声も取り入れた心臓病の啓発番組

▲整形外科医師がロコモティブシンドロームについて解説

▲リハビリスタッフが自宅でできる体操をリポーターと実践

イメージキャラクターも提案！
ロコモと牛の鳴き声「モ～」をかけて誕生したロコモー

行政との連携

住み慣れた地域で、切れ目なく医療・介護・生活支援を受けられる体制づくりを目指し、行政とも協議を重ねながら、地域包括ケアシステムの実現に取り組んでいます。

医療・介護・福祉・暮らしの支援を地域全体でつなぐことが地域住民のみなさんの「いきる」を支える仕組みです。

在宅医療連携拠点センター

2012年に厚生労働省医政局より在宅医療・介護連携推進事業を採択されセンターを設置。医師会・保健所・四国中央市・当院の在宅医療連携拠点センターが連携し、市内の入退院のルール作りや市内の医療介護従事者の研修の実施、住民へのACP（人生会議）の啓発、医療介護に関する相談窓口を設け、課題の抽出や問題解決に向け取り組み続けています。

在宅・医療介護連携会議▶

地域住民向けの在宅医療出前講座▶

▲医療・介護従事者向けの在宅医療研修会

介護予防事業の取り組み

当グループでは行政の委託を受け、認知症や介護予防に役立つ勉強会を定期的に開催。地域の健康寿命を延ばし、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らせる社会づくりを支えています。

中学生に向けたがん教育

中学校でのがん教育義務化に伴い、市内の中学校を対象に出前講座を開催。また、ピンクリボン月間（乳がん啓発）には、中学生がデザインした缶バッジを制作し、地域を巻き込んだ啓発活動を行っています。子どもたちにがんへの関心を高めてもらい、学んだ知識を家庭へと広げることで、早期発見と予防につなげます。

健康づくりの促進

四国中央市主催の「健康まつり」にも積極的に参加しています。専門スタッフが食事や運動、生活習慣の見直しなどについて分かりやすく紹介し、病気の予防や健康づくりの大切さを伝えています。

地域を巻き込んだ啓発活動

世界糖尿病デーに合わせて、しこちゅ～ホール（四国中央市市民文化ホール）を1週間ブルーにライトアップ。糖尿病啓発のシンボルカラーであるブルーが街を彩り、糖尿病への関心を高めるきっかけ作りにも取り組んでいます。

職員が輝く 働きがいといきがいを育む職場

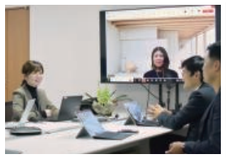
キャリアに合わせて広がる働き方

当グループでは、一体的な医療・介護・福祉サービスを提供しており、職員はキャリアやライフステージに応じて、さまざまな機能や事業所で活躍できます。法人間の人事交流や、定期的な研修・勉強会も盛んに行われており、職種を越えて学び合える環境が整っています。

こうした柔軟な働き方が職員一人ひとりの成長を支え、地域に根ざした医療と福祉の提供につなげています。

ライフスタイルに応じた柔軟な働き方

結婚・子育て・キャリアアップ・介護など、職員のライフステージに応じた柔軟な働き方を支援しています。育児短時間勤務制度や男性の育休取得も進み、日本各地にテレワーク勤務者もいます。院内ではフリーアドレスを導入し、プロジェクトごとにチームを編成するなど、働き方の自由度が高まっています。子育て支援の取り組みが評価され、厚生労働省の「くるみん認定」（子育てサポート企業の証）を取得。多様なライフスタイルに寄り添う制度と環境づくりを通して、職員が安心して長く働ける職場です。



多様な人材が活躍する職場

世代や国籍を超えてさまざまな人材が共に働いています。経験豊かなシニアスタッフは「シニアサポーター」として若手を支えながら現在13名が活躍。海外からは5か国68名の技能実習生が勤務し、働きやすいように日本語教室の開催や介護福祉士合格に向けたサポートも行っています。また、障がいのある方もサポートスタッフとして力を発揮し、医療職が専門業務に専念できるよう支えています。こうした多様性を尊重した職場づくりがチーム力を高めています。

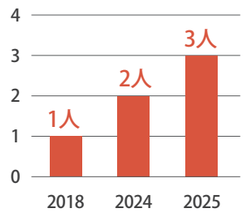
VOICE

2025年に介護福祉士に合格しました！何でも相談できるスタッフ、ミャンマーの仲間もいる健康会アイリスで、これからも少しでも長く働いていきたいです。介護のビザを取得し、家族も呼んで、長く元気に働きたいです。

健康会　テテイ
（2019年5月入職）

▲シニアサポーター(高齢者雇用)

外国人介護福祉士合格者数



選ばれ続ける職場　永年勤続職員も多数!

当グループには、長く務めているベテラン職員が多く在籍しています。さらに、夫婦・兄弟・親子など、家族で一緒に働くスタッフも多数！「ここでずっと働きたい」と思える、信頼と絆のあるグループです。

【2025年の永年勤続職員数】

10年以上…365名
20年以上…47名
30年以上…31名
40年以上…5名

VOICE

創立50周年おめでとうございます。私が石川外科医院に就職して48年目を迎えます。これまで様々な経験をさせていただくなかで、2013年の石川病院からHITO病院への新築移転が完了した際には感慨深いものがありました。私が休職することなく今も働けているのは職場の環境や先輩、同僚に恵まれ支えていただいたからだと心より感謝しております。開院当時から「24時間、365日救急医療」を提供するという思いは受け継がれています。これからも「ひと」との繋がりを大切にし「いきるを支える」医療を目指し地域に貢献できるよう日々努力して参りたいと思います。

記念会
西山 美幸 47年勤続

開院50周年を心よりお祝い申し上げます。45年間この職場で勤務し、忙しい日々にあっという間に時が過ぎました。入社当初の慌ただしい毎日、夜遅くまでの残業、持ち帰り業務など、数多くの経験を積み重ねました。人見知りで真面目だけが取り柄の私が長く勤められたのは、厳しくも温かい上司の皆さまや家族のような同僚の皆さまのおかげです。社員旅行では沖縄、北海道、海外と各地を訪れ、職種を超えた交流で今も続く絆を築きました。先生方との様々なエピソードも心温まる思い出です。家族もIHGでお世話になり、地域にとって欠かせない存在であることを実感しています。患者さんと地域のために尽力される先生方のもとで、微力ながら今後も貢献してまいります。

記念会
鈴木 万利 45年勤続

時代が昭和から平成に変わる頃、福祉系大学を卒業後市内の別の医療機関に勤務していた私に「石川病院が特養を作るので行ってみないか。」と知人から声をかけていただいたのが私と愛美会、石川聚一理事長との出会いでした。振り返れば理事長ご夫妻で時代を読み、先を見据えた強い牽引力があったからこそ私たちは安心して前に進むことが出来ました。その想いを受け継いだ石川ヘルスケアグループは、これからも地域と共に歩み続けます。

愛美会
大西 将彦 36年勤続

私が入職したのは35歳のとき、当時の石川外科医院でした。忙しく目まぐるしい日々の中、福利厚生で旅行に行かせていただく機会もあり、聚一先生の「仕事は仕事、遊びは遊び」という言葉どおり、充実した毎日を過ごしました。振り返れば娘3人も看護師となり「なんで看護師になったの？」と聞くと「それはお母さんが看護師だったからよ」と笑って答えていました。三女は現在も当院手術室で勤務しています。母から「ひとつの職場で我慢できないのは、どこに行っても続かない」と言われた言葉を、私も娘たちに伝えてきました。就職して38年、今は萬翠荘で支えられながら楽しく働いています。これからもよろしくお願いいたします。

(左)愛美会 和氣 末美 38年勤続
(右)記念会 西 泉 24年勤続

小さい頃から親しんできた地元で、姉妹そろって看護師となり石川病院に就職。結婚、出産、子育てを経て現在に至ります。病院では託児所ができ、私たちの子供たちも同僚の子供たちと共に過ごし成長しました。家族や周囲の温かい支えに助けられながら、続けることができたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。職場では医師、看護師、セラピスト、看護補助者などの職種を越えて患者さんやご家族の笑顔のために心を寄せ合い、ケアを届けてきました。だれも見捨てず、最期まで寄り添うことを大切に、これからも共にこの道を歩んでいきたいと思います。

(左) 記念会
近藤 恵美子 35年勤続
(右)健康会
白田 智美 35年勤続

時代の変化と共に変わる広報戦略

広報の原点、1996年の一歩

前身である石川病院時代から広報誌に力を入れており、その歴史は1996年まで遡ります。地域の皆さまに病院の取り組みを知っていただきたいという思いから始まった広報誌は、創刊当初より、医療・介護を取り巻く時代の変化に寄り添いながら、患者さんや地域の皆さまに必要な情報をわかりやすく届けることを大切にしてきました。

▲1996年に発行された
初代病院広報誌

◀当院開院時に
リニューアル
「HITO NEWS」

1996～現在

時代に合わせた広報

医療を取り巻く環境は年々複雑化し、病院広報の役割も多様化しています。患者さんだけでなく、地域住民、医療機関、企業、スタッフなど、当グループと関わるすべての人に幅広く情報を届けるため、広報ツールも時代に応じて変化し続けます。

Instagram

メールマガジン

You tube

ホームページ

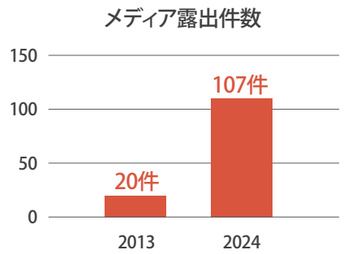
LINE

◀病院広報アワード2023
「病院広報アワード大賞」受賞
SNSを通じて、患者・地域住民・院内で働く人など「人」にこだわった情報発信が効果的に行われている点が高く評価された。

- Instagram …… タイムリーな情報を毎日発信
- メールマガジン …… 深堀したい内容を毎月配信
- You tube …… リアルな職場の雰囲気を配信
- ホームページ …… 正しい情報の発信
- LINE …… 集客や集患に向けたお知らせ

メディアリレーションの推進

より多くの方に情報を届けるため、メディアとの連携も強化しています。プレスリリースの発信回数を増やし、メディアとの密なコミュニケーションを図ることで、取材件数も着実に増加。こうした取り組みを通じて、メディア・地域双方との信頼関係を深め、地域に根差した情報発信を実現しています。



採用広報の強化

採用活動においても、広報の力が重要になっています。採用担当者を含む多職種との情報共有をタイムリーに行い、その情報をもとに広報が内容を集約し媒体に合わせてアレンジして発信しています。

ただ人を増やすのではなく、私たちの理念に共感し、共に未来を築く仲間を迎えるため、そして、ここで働き続けたいと思ってもらうために、様々なツールを活用して「働く魅力」や「私たちの想い」を伝えています。

未来に向けた広報

現在、発行しているメールマガジンは、採用広報を目的としながらも、地域の方々への情報発信や職員への院内ブランディングにも活用されています。一つの媒体で多くの人に情報を届けることで、限られた広報資源の中でも効率的な発信を実現しています。

今後も3法人それぞれの価値や想いを、すべてのステークホルダーに分かりやすく、偏りなく届けることを目指し、未来に向けた広報のあり方として、統合的で効果的な情報発信に取り組んでいきます。

LINE　Instagram　You tube　メルマガ

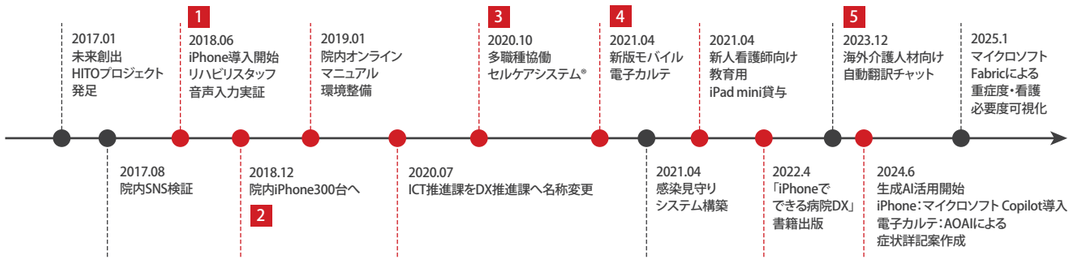
未来に向けての基盤づくり

DX推進による持続可能な基盤づくり

未来を創る、病院DXの挑戦「未来創出HITOプロジェクト」

医療・福祉業界では2030年までに約187万人の人材が不足すると予測されています。働き手の確保や医師の偏在、働き方改革の影響から業務効率化は急務であり、当院でも2017年1月に「未来創出HITOプロジェクト」を発足しました。人口減少社会における医療機関の生存戦略として、テクノロジーを活用した組織変革を進めるとともに、この地域における地域包括ケアシステムの体制整備を支える取り組みです。

未来創出プロジェクトの歩み



1

2

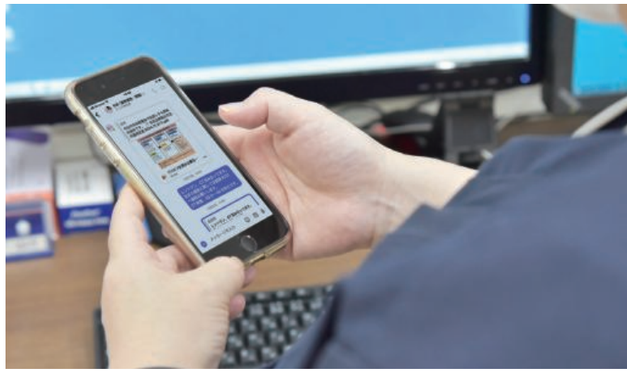
3

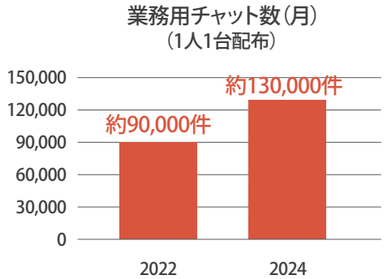
4

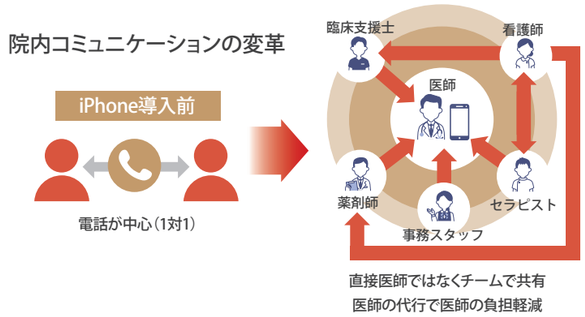
5

iPhoneとチャットによる働き方改革

2018年より全職員に業務用iPhoneを配布し、チャットを活用した多職種協働の基盤を整えてきました。従来のPHSでは難しかった「報告・連絡・相談」が、リアルタイムかつ非同期で共有できるようになり、業務の透明性と連携力が大幅に向上しました。急変対応や退院調整もスムーズになり、情報の記録・振り返りによる学習サイクルも促進されています。iPhoneとチャットは、現場の協働を支える中心的な役割を担っています。







患者さんのそばで支える「多職種協働セルケアシステム®」

iPhone導入で多職種の連携を強化した結果、患者さん中心の医療の在り方を創出する「多職種協働セルケアシステム®」が誕生。

この取り組みでは、1つの病棟を3つの「セル」に分け、それぞれに看護師・リハビリスタッフなど多職種のチームを固定配置しています。従来のスタッフステーションを拠点にせず、セルを活動の中心とすることで、スタッフの移動距離が大幅に減り、患者さんのそばでケアを行えるようになりました。この仕組みにより、患者さんの変化にすばやく気づくことができ、重症化の防止やナースコールの減少にもつながっています。

患者さんのQOL（生活の質）向上と、職員の働きやすさを両立させる、持続可能な患者さんの「いきるを支える」次世代に向けた取り組みです。

▲セルカンファレンスの様子

【Point】

スタッフステーションでの申し送り廃止/多職種ミーティングの削減	移動距離の減少（4-5km/日）
残務調整もグループチャット	1日100分の時間を創出

看護師全体で
年間6000時間
時間外労働減へ

石川ヘルスケアグループが描く未来設計図 人に寄り添うテクノロジー

当グループが目指すDXの未来は、単なる業務効率化ではなく、「人に寄り添う」テクノロジーの実装によって、サービスの質向上とスタッフの働きがいを両立させることにあります。これからの医療・介護現場では、スマートグラス・生成AIの技術が、現場の協働と意思決定を支える重要な柱になると考え取り組んでいます。

スマートグラスの導入

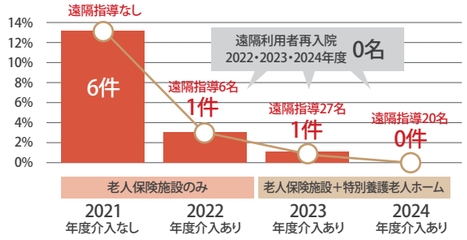
スマートグラスはハンズフリーでのコミュニケーションやカルテ参照が可能で、訪問看護師から病院専門職への相談や、施設スタッフとST（言語聴覚士）による遠隔での嚥下指導などに活用されています。クラウドファンディングを通じて地域内外から寄付をいただき、導入を実現しました。

【Point】

【症例1】 訪問看護師と医師とを繋ぎ、病状確認をしたことにより、病院への受診回数が3回➡1回へ減少

【症例2】 訪問看護師と認定看護師とを繋ぎ、ケアの方法について確認したことにより、病院への受診回数が1回➡0回へ減少

遠隔支援成果：誤嚥性肺炎による再入院を予防



支援者104名 目標金額168%達成!

▲クラウドファンディング

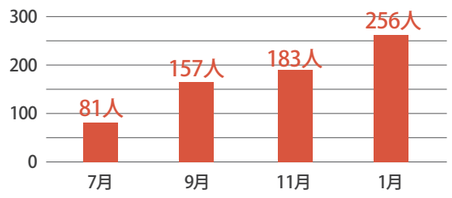
▲施設と言語聴覚士を繋ぐ

▲訪問看護と病院を繋ぐ

現場を支える生成AI

生成AIは、記録や情報整理の負担を軽減し、診療録や看護記録の要約、問診の構造化、説明文作成などを支援します。また、チャットや会議の要点抽出により、多職種間のコミュニケーション向上にも寄与します。当院では電子カルテに要約機能が搭載されており、現場を支える“伴走者”として生成AIの活用が進んでいます。

2024年度 生成AIの利用人数



日本語←→外国語
相互自動翻訳チャット

企業・地域・行政との協業 DXを面に広げる

当グループでは、DXを院内改革にとどめず、企業・地域・行政と協働し、医療の未来を共に創る取り組みを進めています。

▲回診時カルテ閲覧・音声入力

▲配薬時 オーダー情報確認

▲QRコードでの三点認証

▲カルテへの写真貼付

モバイルカルテ（NewtonsMobile2）共同開発／（株）ソフトウェア・サービス

企業との連携

現場課題の可視化や仕組みづくりを共に行い、製品導入に留まらず伴走型支援を重視。病院は技術を活かし、企業は現場理解を深め、双方向の協創でDX定着を実現しています。

地域・行政との連携

医療・介護・福祉・教育など幅広い分野と連携し、地域包括ケアの中核として機能。病院見学や講演・研修の受け入れを通じ、知見を共有し、次世代人材育成にも貢献しています。

2019年から病院見学の受け入れを開始し、現時点で257件実施。

▲病院見学の様子

▲市内ケアマネ協議会での講演

▲福岡厚生労働大臣視察

全国への展開

出版や協会設立を通じて、病院DXの標準化と普及を推進。培った知見を広く発信し、DXを“点”から“面”へと広げ、社会全体の医療の質と持続可能性の追求を目指しています。

病院DX
日本病院DX推進協会

▲南海放送の報道協力

▲日本病院DX推進協会設立

▲iPhoneでできる病院DX出版

未来を担う医療従事者の育成

全国の研修医から選ばれる病院に ～卒後臨床研修プログラム～

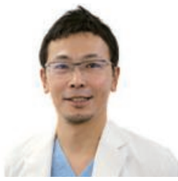
2003年に当院は初期臨床研修指定病院として認定され、若手医師の育成に注力しています。選択科目を柔軟に組み合わせられるプログラム、勉強会や学会参加、資格取得の支援も充実しています。当院の研修の特徴は、診療科の垣根が低く、医師だけでなくメディカルスタッフや事務職も含めた全職員が一丸となって研修医を支える風土で、全国から多くの研修医が当院を選び、地域医療の現場で成長を遂げています。

総勢
32人卒業

VOICE

今から約20年前、初代初期研修医として貴院に赴任した際の情熱や緊張感、そして温かく迎えてくださった先生方やスタッフの皆さまとの日々は、今も私の原点として深く心に刻まれております。わずか2年間ではありましたが、貴院で学んだ多くのことは、医師としての在り方を含め、私の礎となっており、心より感謝申し上げます。半世紀にわたる皆さまのたゆまぬ努力と地域医療への多大なご貢献に、深く敬意を表するとともに、今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

神戸中央クリニック院長 大川勝正氏（初期臨床研修医 一期生）



地域医療の未来を担う、若手医師の育成 ～専門研修プログラム～

複数の疾患や多様な生活背景を持つ患者様の増加への対応、地域医療や高齢者医療の現場で「患者一人ひとりの全体像を診る力」を持つ医師の育成のため、地域の医療機関と連携し、2018年に総合診療専門研修プログラムを開始。県内外からの専攻医を受け入れ、現在までに4名の専攻医が当プログラムで学び、地域医療に貢献しています。また、2022年には内科専門研修プログラムも開始し、今後もこの地域で若手医師を育成できる環境を整備していきます。

在宅医療を支える看護師育成 「看護師特定行為研修」

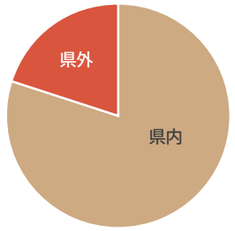
高齢化により医療の多様化・複雑化が進む中、地域全体で「いきるを支える」医療・介護の連携が求められています。当院では在宅に強い看護師養成を目的に、2021年度に看護師特定行為研修指定医療機関の認可を受け、グループ内外の特定行為看護師を養成。病院・施設看護師・訪問看護師と背景の違う受講生が、四国内から集まり、広域医療にも貢献しています。チーム医療のキーパーソンである看護師が、医療現場において、高度な臨床実践能力を発揮できることを目指し育成に尽力しています。

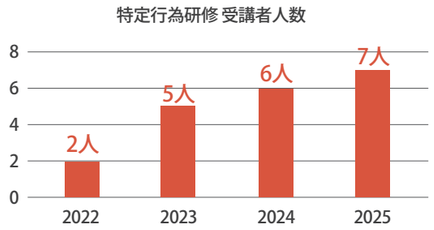
▲2024年度看護師特定行為研修開講式

▲院内実習中の医師による指導風景

特定行為研修修了者の勤務先
（県内・県外）

20人中、県外からの受講者は4名





医療・介護・福祉を担う未来の医療人材を育成

地域の子どもたちや学生に向けた学びの機会を提供。小学生には医療体験ツアーを通じて、働くことや医療の仕事を身近に感じてもらい、中高生には職場体験学習を通じて、医療現場の責任ややりがいを伝えています。

さらに、地域の専門学校生には実習の場を提供し、実践的な学びを支えています。幼い頃から地域の医療を守る人々の姿を見てもらうことで、医療への関心を育み、未来の医療人材の育成につなげることを目指しており、これからも地域とともに、学びの場をつくり、つながりを深め、支え合う関係を築いていきます。

▲事務職オンサイトインターンシップ

▲HITOフェスタ

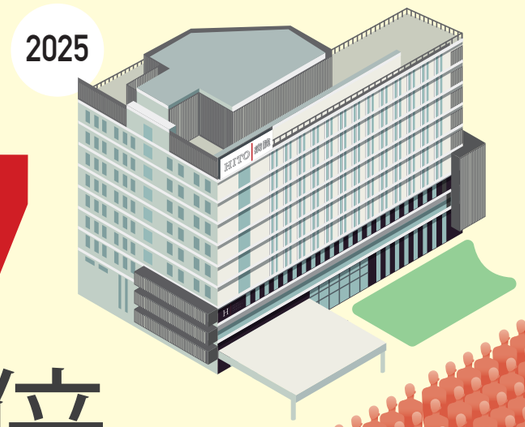
◀ 近隣小学校2・3年生の町探検

▲中学生の医師体験

数字で見る 石川ヘルスケアグループ

職員数（1976年▶2025年）

約77倍



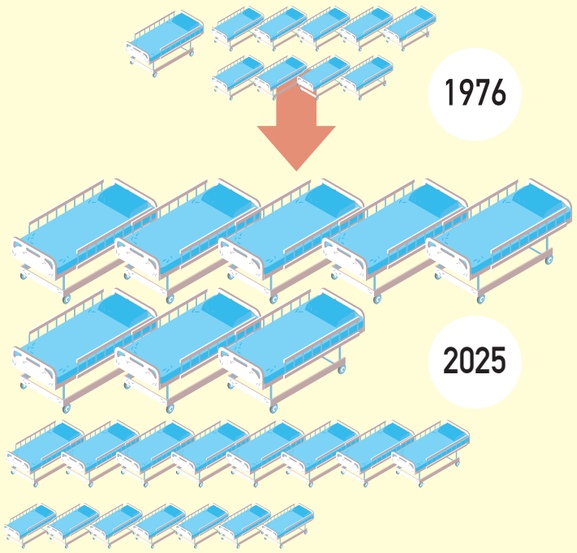
石川外科医院 17人 ▶ 現在 1,309人

男女比（2025年）

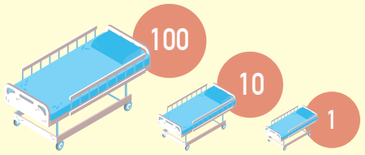
男 27 : 73 女

病床数（1976年▶2025年）

約46.7倍



石川外科医院 19床 ▶ 現在 887床



職員出身地（2025年）

37県 6か国

ネパール・インドネシア・ミャンマー・ベトナム・韓国・フィリピン出身有

数字で見る HITO 病院

救急関係 (開院時▶2013年▶2024年)

救急患者数

約14.1倍

約 380 人 ➡ 4052 人 ➡ 5368 人/年

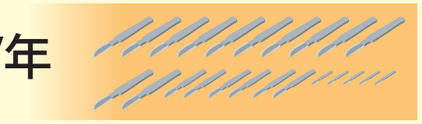
救急車受け入れ台数

約14.26倍

152 台 ➡ 1472 台 ➡ 2168 台/年

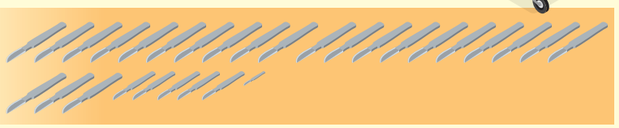
手術件数 (2013年▶2024年)

1265件/年



▼

2351件/年



患者関係 (2024年)

外来患者数 / 1日あたり

243.3人

新規入院患者数
1日あたり

12.5人

平均在院日数
(急性期)

11.1日

健診関係 (2024年)

総受診者数 / 年

約23,000人

利用企業数 / 年

約800社

社会福祉法人 愛美会　石川ヘルスケアグループ 医療法人健康会

数字で見る

看取り件数 (2024年)

2日に約3人看取っている

愛美会 健康会 143人/年

のべ利用者 (2024年)

市内利用率 (2023年)

合計約31.2%

イベント件数 (2024年)

愛美会 健康会 888件/年

365日、毎日2件はイベント開催!

50周年を迎えて～IHGに寄せられた想い～

50周年を迎えるにあたり、たくさんの方々から温かいメッセージをいただきました。患者さんや利用者さん、ご家族、地域の皆さん、そして職員の皆さんの声は、私たちの励みであり、これからの未来を照らす道しるべです。ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

日々の感謝の気持ち、温かい励ましの言葉など、たくさんの心のこもった声が集まりました。その一部をご紹介いたします。

皆さまからの声は、私たちの原動力であり、これからの50年を歩むための大切な道しるべです。ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

■……地域の方、患者さんとそのご家族
■……IHG職員

HITO病院で初めての研修医として、また医師としてキャリアをスタートしました。地域の患者さんやスタッフから多くの事を学ばせていただき、医師としての基礎は全て四国中央市で学んだと言っても過言ではありません。大好きな街と大好きな病院で過ごせた2年間は私の宝物です。

就職してから経験を活かし、たくさんの資格を取得することができました。また、子育てをしながらも、皆さまに支えていただきながら働き続けることができました。これからも自分のできることを精一杯頑張りたいと思っています。このグループに就職できたことを誇りに思っています。

ご利用者さんに対して、常に真摯に向き合う姿勢を皆で体現していくことができるIHGが大好きです。新しいことにも積極的に取り組ませてもらい、感謝しています。

大事にしてもらえた、優しかったなどの施設に対する感謝の言葉と笑みが溢れています。喜んで看護を受けている事、待ち遠しくしていること、家族としても嬉しい限りです。

母の94歳の誕生日を家で迎えることができ、皆でお祝いをして翌朝息を引き取りました。一足早く三島の杜さんでお祝いしていただき、写真もいただきました。ショートステイでお世話になりながら、なんとか最期まで家で看ることができたのも皆様のおかげです。

緩和病棟の医師より説明されましたが、訪問看護さんのおかげで最期まで家で過ごすことができました。「いつでも、連絡してください」の言葉、とても安心できました。

遊ぶ時は遊び、仕事の時は一生懸命頑張れ!の教えが身につき、地域にとって最後の砦として頑張っています!生きるを楽しめるグループを目指して頑張りましょう!

40年ほど前ですが、親戚が旧石川病院に入院したらお見舞いに来ていた記憶があります。子供心に大きい病院があるなぁと思っていました。昔見ていた病院が更に大きな病院となり、地域の人たちのいきるを支えて50年です。昔見ていた病院に入職し、今も働いていること、この縁を大切にこれからもHITO病院と共に歩み続けたいと思います

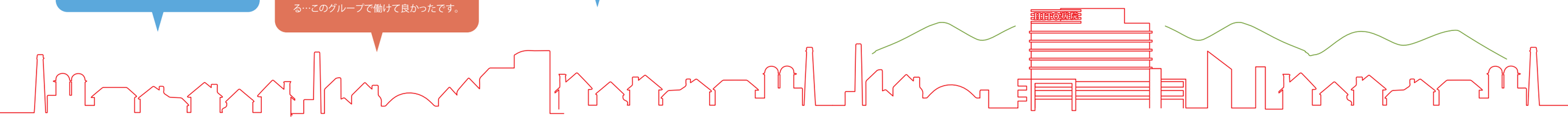
地域の方々あってのIHGだと思います。皆さんに頼っていただけるようこれからも頑張ります。今後ともよろしくお願いします。

50周年おめでとうございます。四国では石川ヘルスケアグループも唯一無二の存在になっています。益々の発展をお祈りします。次は60周年目指して頑張ってください。

私の父は最初は介護サービスを受けることを嫌がっていましたが、利用するごとに笑顔が増え、家族も安心して見ていられるようになりました。父を通じて、人と交わることの大切さに気付かされました。

ほんの些細なことでも母についての話を聞くと「母のことちゃんと見ていただけたんだ!」と嬉しくなります。母と家族の人生を支えてくれて本当にありがとうございます。

病院に就職して15年、子育てしながら看護師を続けています。資格取得や研修の参加を勧めてくれる人がいて、忙しくても「今日頑張った」と言い合える仲間がいる…このグループで働けて良かったです。



石川ヘルスケアグループの今後の未来像

「いきるを支える、いきるを楽しむ」

人口減少が進む中、従来の延長線上では、

持続可能性を追求できない時代へと突入します。

私達は、次の50年も「病と向き合う」だけでなく、「どう生きるか」に寄り添い、

ひとを真ん中においたサービスの提供を続けていきます。

今までも多くの方に支えられ、つながる事でイノベーションを創出してきました。

これからも、常に挑戦を続け、石川ヘルスケアグループの

「いきるを支える、いきるを楽しむ」を体現し、社会に貢献していきます。

これからも地域とともに歩み続けます。

社会医療法人石川記念会 HITO病院 概要

病院名	社会医療法人石川記念会HITO病院
所在地	〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町788番地1
電話番号	0896-58-2222
代表者	理事長／石川ヘルスケアグループ 総院長　石川 賀代
病床数	病床数228床（急性期一般入院料1 86床、HCU12床、SCU6床、感染病床4床、地域包括ケア病棟53床、緩和ケア病棟17床、回復期リハビリテーション病棟50床）
診療科目	消化器内科、循環器内科、脳神経内科、緩和ケア内科、リウマチ科、外科、救急科、乳腺外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、肛門外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、美容外科、婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、精神科

施設基準

●基本診療料
情報通信機器を用いた診療に係る基準
医療ＤＸ推進体制整備加算
初診料（歯科）の注1に掲げる基準
一般病棟入院基本料
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算１
医師事務作業補助体制加算１ 15対1
急性期看護補助体制加算 25対1（看護補助者5割以上）
看護職員夜間配置加算 16対1配置加算1
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
緩和ケア診療加算
栄養サポートチーム加算
リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算
医療安全対策加算１ 医療安全対策地域連携加算
感染対策向上加算2
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
術後疼痛管理チーム加算
後発医薬品使用体制加算１
病棟薬剤業務実施加算１
データ提出加算2イ
入退院支援加算1 入院時支援加算 地域連携診療計画加算 総合機能評価加算
認知症ケア加算1
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
排尿自立支援加算
地域医療確保体制加算
協力対象施設入所者入院加算
ハイケアユニット入院医療管理料１
脳卒中ケアユニット入院医療管理料
回復期リハビリテーション病棟入院料１
地域包括ケア病棟入院料２及び地域包括ケア入院医療管理料２
緩和ケア病棟入院料１
看護職員処遇改善評価料
入院時食事療養／生活療養（Ｉ）
外来在宅ベースアップ評価料
歯科外来在宅ベースアップ評価料
入院ベースアップ評価料

●特掲診療料
心臓ペースメーカー指導管理料の注５に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
外来緩和ケア管理料
糖尿病透析予防指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料
二次性骨折予防継続管理料1
二次性骨折予防継続管理料2
二次性骨折予防継続管理料3
下肢創傷処置管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注３に掲げる救急搬送看護体制加算
外来腫瘍化学療法診療料
外来腫瘍化学療法診療料の注９に規定するがん薬物療法体制充実加算
ニコチン依存症管理料
療養両立支援指導料
がん治療連携計画策定料
外来排尿自立指導料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
地域連携診療計画加算
医療機器安全管理料１
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
在宅療養後方支援病院
在宅患者訪問褥瘡管理指導料
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注２に掲げる遠隔モニタリング加算
ＢＲＣＡ１／２遺伝子検査
ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ｉ）
検体検査管理加算（II）
神経学的検査
補聴器適合検査
有床義歯咀嚼機能検査１の口及び咀嚼機能検査
画像診断管理加算２
ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影 64列マルチスライス MRI3ﾃｽﾗ
冠動脈ＣＴ撮影加算
心臓ＭＲＩ撮影加算

抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算１
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ）
運動器リハビリテーション料（Ｉ）
呼吸器リハビリテーション料（Ｉ）
がん患者リハビリテーション料
エタノールの局所注入（甲状腺）
エタノールの局所注入（副甲状腺）
ストーマ合併症加算
ＣＡＤ／ＣＡＭ冠
緊急整復固定加算
人工股関節置換術（手術支援装置を用いるもの）
椎間板内酵素注入療法
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔塵穿孔塵閉鎖術
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
医科点数表第２章第10部手術の通則の16に掲げる手術
輸血管理料 II
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料（Ｉ）
周術期薬剤管理加算
クラウン・ブリッジ維持管理料
●その他
酸素の購入単価

指定医療機関

●保険医療機関
●労災保険指定医療機関
●指定自立支援医療機関（精神通院医療）
●身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
●指定小児慢性特定疾病医療機関
●生活保護法指定医療機関
●結核指定医療機関
●原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
●DPC対象病院
●愛媛県高次脳機能障害相談支援協力機関
●難病指定医療機関
●下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
●日本形成外科学会 乳房増大用エキスパンダー/インプラント実施施設
●日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 乳房再建エキスパンダー実施施設
●日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 乳房再建インプラント実施施設
●肝疾患に関する専門医療機関
●ISO 9001：2015

教育施設等の指定

●初期研修
臨床研修指定病院
●専門研修
総合診療専門研修基幹施設
内科専門研修基幹施設
日本外科学会連携施設
日本整形外科学会連携施設
日本脳神経外科学会指定訓練施設
日本形成外科学会教育関連施設
日本耳鼻咽喉科学会連携施設
日本麻酔科学会認定病院
●サブスペシャリティ
日本消化器病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本肝臓学会関連施設
日本循環器学会研修関連施設
日本神経学会 准教育施設
日本脳卒中学会研修教育病院
日本脳神経血管内治療学会研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本人間ドック健診研修施設
プライマリ・ケア連合学会（新・家庭医療専門研修プログラム）
日本リハビリテーション医学会研修施設
●その他
特定行為研修指定研修機関

社会福祉法人愛美会 概要

名称	社会福祉法人　愛美会
所在地	〒799-0121　愛媛県四国中央市上分町乙8-2
電話番号	(0896)58-0180
代表者	理事長　石川粲一
設立	昭和63年12月
施設・事業所	特別養護老人ホーム 萬翠荘/通所介護事業所 みどり荘/居宅介護支援事業所 すいは/特別養護老人ホーム 樋谷荘/通所介護事業所 樋谷荘/障がい者デイサービス ひのたに/特別養護老人ホーム 豊寿園/通所介護事業所 ひうち荘/地域密着型介護老人福祉施設 山田井の郷/小規模多機能型居宅介護事業所 山田井の郷/地域密着型介護老人福祉施設 三島の杜/グループホーム 三島の杜/デイサービスセンター 三島の杜/ケアハウス 虹の里/特定入居者生活介護事業所 虹の里/養護老人ホーム 敬寿園
定員数	▼施設・居住系 特別養護老人ホーム 萬翠荘：124名（併設短期入所14名） 特別養護老人ホーム 樋谷荘：70名（併設短期入所9名） 特別養護老人ホーム 豊寿園：50名（併設短期入所10名） 地域密着型介護老人福祉施設 山田井の郷：29名（併設短期入所10名） 地域密着型介護老人福祉施設 三島の杜：29名（併設短期入所10名） グループホーム 三島の杜：18名 ケアハウス 虹の里(一部 特定施設入居者生活介護)：50名 養護老人ホーム 敬寿園：50名 ▼在宅系 通所介護事業所 みどり荘：35名 通所介護事業所 樋谷荘：70名 通所介護事業所 ひうち荘：30名 小規模多機能型居宅介護事業所 山田井の郷：登録29名 デイサービスセンター 三島の杜：25名 共用型デイサービス 三島の杜：6名 障がい者デイサービス ひのたに：20名
サービスの種類	特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、特定施設入居者生活介護、軽費老人ホーム(ケアハウス)、養護老人ホーム、通所介護、生活介護（障がい者デイサービス）、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援

医療法人健康会 概要

名称	医療法人健康会
所在地	〒799-0121愛媛県四国中央市上分町732番地1
電話番号	(0896)59-2215
代表者	理事長　石川粲一
設立	平成23年6月
施設・事業所	石川クリニック/介護老人保健施設アイリス/ユニット型介護老人保健施設アイリス/通所リハビリテーションアイリス/訪問リハビリテーションアイリス/指定居宅介護支援事業所いしかわ/ヘルパーステーションいしかわ/定期巡回・随時対応型訪問介護看護いしかわ/訪問看護ステーションいしかわ/一般型通所介護いしかわ/デイ・サービスセンターむらまつ/グループホームいしかわ/デイサービスグループホームいしかわ/ケアHOMEピース/サービス付き高齢者向け住宅レインボー
定員数	▼入居系 介護老人保健施設アイリス（ユニット型含む）　110名 サービス付き高齢者向け住宅レインボー　40名 グループホームいしかわ　18名 ▼通所系 通所リハビリテーションアイリス　115名 一般型通所介護いしかわ　18名 デイ・サービスセンター「むらまつ」　18名 デイサービスグループホームいしかわ　6名 ケアＨＯＭＥピース　登録29名
サービスの種類	クリニック、介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、居宅介護支援、訪問介護（居宅介護・重度訪問介護）、訪問看護、定期巡回・随時対応型訪問看護介護、地域密着型通所介護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、サービス付き高齢者向け住宅、小規模多機能型居宅介護